

4 - 1 花かざりコンクール一次審査通過者について

本章では、『花の都ぎふ』花かざりコンクール」の一次審査通過者におけるガーデニングに対する意識特性の把握を試みる。本章で対象とするガーデナーは、コンクール一次審査を応募用紙審査により通過した集団であり、レベルの差はあるが飾り方、育て方などについて技術的に優秀な集団であるといえる。また、前節で、ヒアリングにより、コンクールへ「出品したくない」ガーデナーの存在についても言及したが、一次審査通過者は、一般ガーデナーの中でもより技術の優れた集団であると同時に、個人の差はありながらも、少なくとも自分の所有物を「人に見せ、評価されること」を望んだ人の集まりでもある。彼らの意識は公へ開かれているのか、またその意識の差は個人によってどの程度異なるのか、それらを明らかにすることを本章の目的とする。

4 - 1 - 1 第8・9回コンクール応募状況と一次審査通過状況

(1) 応募状況

「花かざりコンクール」は2000年で9回目を数えるが、一次審査が設けられるようになったのは1999年の第8回からである。また、一次審査を行う各県事務所（圏域）についても、第8回が12ヶ所であったのに対し（表4-1）、第9回では「伊奈波」が「本巣」が「山県」が統合され「岐阜」に、「西南濃」が「西濃」が「加茂」が「中濃」が「土岐」が「東濃」とそれぞれ名称を変更し、合わせて10ヶ所の県事務所により一次審査が行われることとなった。

3章でも述べたとおり、第8回は一次審査の通過基準が、個人部門で各圏域ごとに5名選出としていたが、第9回では各圏域で応募者総数の25%を選出と大幅に変更された。そのため、一次審査通過者総数、通過率ともに大幅に変動があった。

まず、各圏域において、人口に対してどの程度の人が応募しているかをみるため、一万人当たり応募者数を算出した（表4-1）。第8回では「益田」が「山県」が「揖斐」の順で応募者数が高く、「益田」においては最低の「伊奈波」の9倍以上の応募者数となる。応募者数の高いこれら三つの圏域は全体的にガーデニングが盛んであるといえる。第9回では一次審査通過者の整合性を保つために一次審査の通過基準の見直しが行われ、「益田」が「揖斐」が「郡上」の順に高い応募率となっている（表4-2）。

表4-1 圏域別にみた人口とコンクール応募者数の比率（第8回）

地区	人数	人口(人)	応募者(人)	一万人あたり応募者数(人)	一次審査通過者数	通過率(%)
伊奈波	662,173	57	0.86	5	8.8	
西南濃	319,317	39	1.22	5	12.8	
揖斐	74,860	35	4.68	5	14.3	
本巣	93,102	15	1.61	5	33.3	
山県	32,517	18	5.54	5	27.8	
武儀	116,900	29	2.48	5	17.2	
郡上	51,413	16	3.11	5	31.3	
加茂	215,292	37	1.72	5	13.5	
土岐	220,677	21	0.95	5	23.8	
恵那	142,977	30	2.10	5	16.7	
益田	40,917	30	7.33	5	16.7	
飛騨	129,207	18	1.39	5	27.8	
計	2,099,352	345		60		
平均			1.64	5	17.4	

表4-2 圏域別にみた人口とコンクール応募者数の比率（第9回）

地区	人数	人口	応募者数	一万人あたり応募者数(人)	一次審査通過者数	通過率(%)
岐阜	787,792	76	0.96	19	25.0	
西濃	319,317	54	1.69	14	25.9	
揖斐	74,860	37	4.94	12	32.4	
武儀	116,900	33	2.82	5	15.2	
郡上	51,413	18	3.50	6	33.3	
加茂	215,292	29	1.35	8	27.6	
土岐	220,677	16	0.73	4	25.0	
恵那	142,977	23	1.61	6	26.1	
益田	40,917	34	8.31	9	26.5	
飛騨	129,207	41	3.17	11	26.8	
計	2,099,352	361		94		
平均			1.72		26.4	

4 - 1 - 2 応募用紙にみるコンクール一次審査通過者の属性と傾向

(1) 一次審査通過者の属性

次に、第8・9回花かざりコンクール一次審査通過者154名全体の属性についての考察を試みる。応募用紙の記述から、応募者の性別、年齢、居住地区、花かざり実施人数、花かざり歴（ガーデニング歴）、応募の形態（推薦者の有無）を読み取った。また第1回から第7回までの花かざりコンクール受賞歴（大賞・金賞・銀賞・銅賞・審査員会特別賞・特別奨励賞受賞者）についても文献調査により同時に把握することとした。（注：花かざり実施人数、花かざり歴はいずれも記入必須事項であるが書き忘れが多く、特に年齢などは全体を把握するには十分な数でなく、傾向の把握にとどまっている。）

性別

「男性」と「女性」の割合は17%:83%であった。女性が圧倒的に多く、ガーデニングが主婦を中心にした女性の趣味であることがうかがえる（図4-1）。

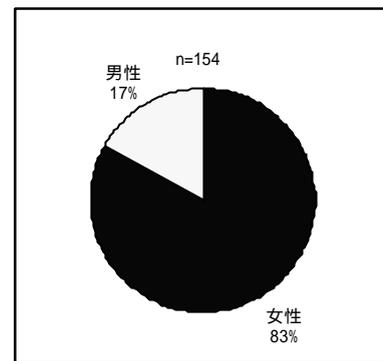


図4-1 性別

花かざり実施人数

70%近くの一次審査通過者が1人で花かざりを行っていることがわかった（図4-2）。それに対して、残りの約30%は家族や友人など複数で花かざりを楽しんでいる。庭が個人の趣味の場としてだけでなく、作業を通じた交流の場としても使われていることがうかがえる。

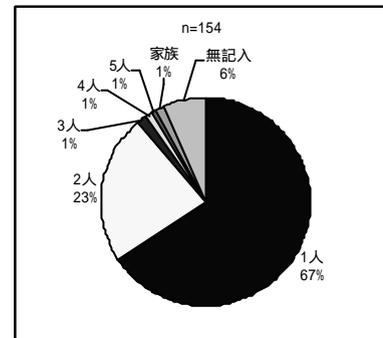


図4-2 花かざり実施人数

年齢

年齢については、無記入が半数以上を占めるため、参考程度の傾向をあらわすものでしかない。図4-3からは、「50代」が最も多く、次いで「40代」、「60代」の順に多くなっていることがわかる。

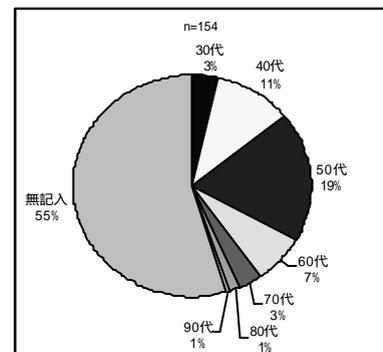


図4-3 年齢

花かざり歴（ガーデニング歴）

次に、花かざり歴をみた（図 4-4）。「10 年以上 20 年未満」、「5 年以上 10 年未満」の順に高い。両者を併せると、ガーデニングブームといわれるここ数年にガーデニングを始めた「3 年未満」、「3 年以上 5 年未満」の一次審査通過者の 3 倍近くにもものぼっている。ブームとしてでなく、長年の趣味としてガーデニングに取り組んできた人が多いことがわかった。

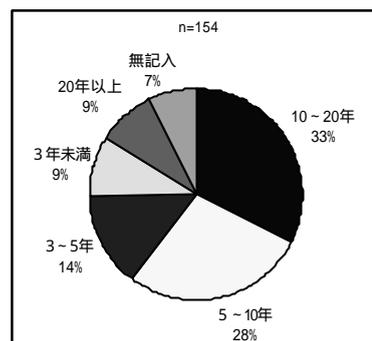


図 4-4 花かざり歴

応募の形態

図 4-5 からわかるように、「自薦」による応募が 9 割を占める。13 人が推薦者による推薦を受けての応募となっている。推薦者については、各市町村や村長など行政関係者が 9 人、花のアドバイザーが 2 人、ハンギングバスケットマスター（日本ハンギングバスケット協会が認定する資格）と友人が各 1 人ずつとなっている。しかし、「他薦」による応募であっても、応募用紙の自己 PR 欄などは本人が記述しているものがほとんどであり、主体性を伴った他薦であるといえよう。

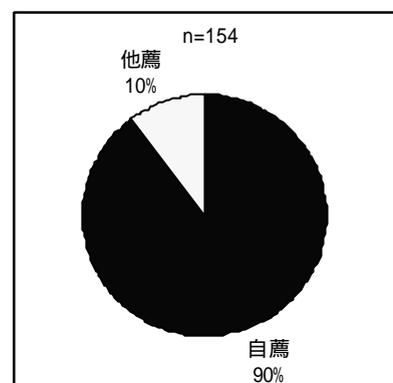


図 4-5 応募の形態

花かざりコンクール過去上位入賞歴

第 1 回から第 7 回までのコンクールにおいて、大賞・金賞・銀賞・銅賞・審査委員会特別賞・特別奨励賞の入賞経験のあるものは、一次審査通過者 154 名のうち合計 15 人であった。そのうち、5 回の 1 人を筆頭に、3 回が 3 人、2 回が 2 人、1 回が 9 人となっている（図 4-6）。

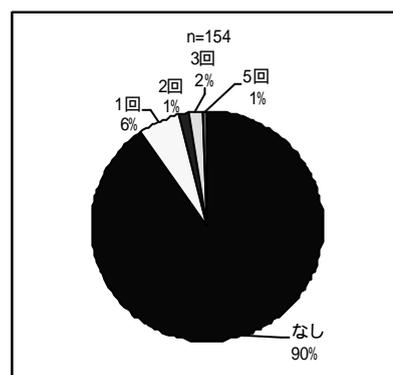


図 4-6 花かざりコンクール上位入賞歴

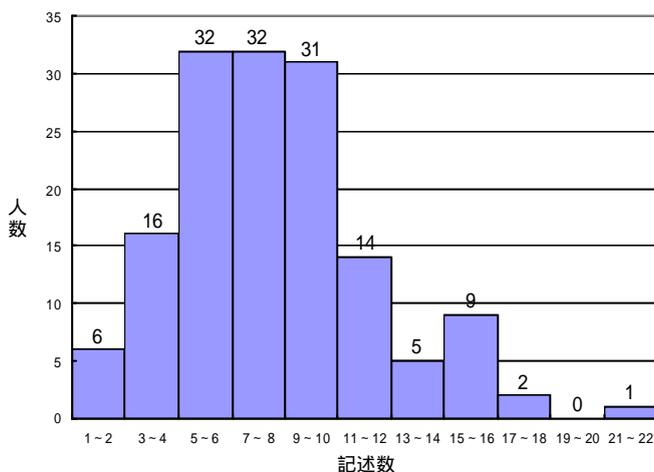
(2) 記述数

次に、自己 PR 欄における記述数の傾向をみる。ここからは分析の対象外である 6 名を除き、148 名分の応募用紙を考察の対象とする。全体での記述数の総計は 1336 個、個人の平均は 9.03 個である（表 4-3）。応募用紙を改造し、記述欄を拡大している応募者もみられ、記述数は最大 22、最小 2 となっている（図 4-7）。規定では各 6 枚ずつとなっている写真の

枚数とコメント数の平均は、それぞれ写真数 5.32、コメント数 6.09 となっている。

表 4-3 応募用紙全体にみる記述数（詳細なカテゴリーについては表 2-5 参照）

大カテゴリー	A 庭づくりの 動機	B 庭づくりの 意識	C 庭づくりの 取り組み	D 庭の状況	E ガーデナー自身 について	合計
記述数	427	155	554	121	79	1,336



標本数	148
合計	1336
平均	9.0270
最小値	2
最大値	22
分散	13.2831
標準偏差	3.6446
変動係数	0.4051

図 4-7 個人別にみた応募用紙記述数の分布

次に、全記述数のカテゴリー別の内訳をみる。図 4-8 のように庭づくりの留意点や普段の活動などについての「C:庭づくりの取り組み」に関するものが最も多く、ついで「A:庭づくりの動機」、「B:庭づくりへの意識」といったガーデナーの内面的なもの、「D:庭の状況」、「E:ガーデナー自身について」という現状や属性の順になっている。応募用紙は応募者にとって自分に庭づくりへの取り組みをアピールする場であり、応募者の庭や庭づくりへの思いが強く表れているものであるといえる。

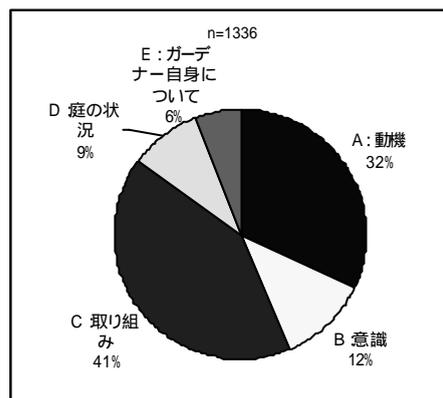


図 4-8 カテゴリー別記述数

4 - 2 花かざりコンクール一次審査通過者タイプの分類

4 - 2 - 1 一次審査通過者タイプ分けの方法

本節からは、応募用紙自己 PR 欄の記述によって一次審査通過者のタイプ分けを行うことで各タイプのガーデニングに対する意識の違いをより明確にし、これらから全体の意識特性の考察を試みる。

分類に用いた変数

まず、応募用紙自己 PR 欄の 107 の記述カテゴリー（2 - 5 参照）のうち、「A：庭づくりへの動機」（表 2-5）に関する記述カテゴリーを、「マクロ₁」「マクロ×景観₁」「景観₁」「マクロ×モノ₁」「モノ₁」「ミクロ×モノ₁」「ミクロ」の7つ（ミクロ×景観に当てはまるカテゴリーは存在しなかった）のグループに分けた。また、「C：庭づくりの取り組み」（表 2-7）の中から、「庭づくりの留意点」に関する記述を、「景観₁」「モノ₁」の2つのグループにまとめた。類型化に際しては、これらの9つのグループ内の記述数を、全体の記述数で割った「記述ポイント」を変数として用いた。これは記述者の性格が記述の量にも反映される可能性を考慮したためである。

記述カテゴリーの中から、上記の9つのグループの記述ポイントを変数に選択した理由は、ほとんどの応募者が庭づくりの動機や留意点に関する記述を書きしており、これらの記述の差異から、一次審査通過者の類型化が可能であると判断したためである。これらの項目とガーデナー意識には関係性があると予想される。

分類の方法

分析には「SPSS 10.0J for Windows」を用い、手法としてクラスター分析を用いた。具体的な手順を以下に示す。

- 1) まず、応募用紙自己 PR 欄の記述をカテゴリー（表 2-5）に沿って抜き出した。
- 2) 記述カテゴリーのうち、上記の9つのカテゴリーグループの記述カテゴリーに属する記述のグループでの合計を、それぞれ全体の記述数で割った「記述ポイント」を導き出した。
- 3) 9つの「記述ポイント」を変数として、クラスター分析により類型化を行った。分析上、個体と個体の類似度を表すために平均ユークリッド距離、クラスター間の距離を決める方法として平均連結を採用した。
- 3) クラスター分析で得たデンドログラム(APPENDIX - 参照)を等しい類似度で区切り、20 のガーデナーグループを設定した。ただし、ここで得られた一部の小グループについては、性質上他のグループに組み込めるものは組み込み、また同質の小グループをまとめてグループ化をさらに行い、最終的に6つにタイプ分けした。このため、クラスター分析によって得られた類似距離はすべてが等しくはなっていない。

4) 各タイプの特徴を読み取り、タイプ名称を決定した。

分類過程の統計的結果

ここではタイプ分けの際のクラスターの統合について詳しく説明する。クラスター分析の結果、合計でA～Tの20のグループが得られた(クラスター分析結果、グループA～TについてはAPPENDIX - 参照)。そのうち、グループの構成人数が1人のものが5つ(D、E、P、S、T)、2人のものが4つ(G、H、J、L)であった。このように少人数のグループが多数生じた理由としては、クラスター分析の変数として全記述数で割った「記述ポイント」を用いたことが理由として挙げられる。記述数が極端に少ない人など、各個人で大きく異なる特徴があらわれたため、これらがクラスターをなさなかったと予想される。

そこで、クラスター分析をおこなうためのデータ(APPENDIX - 参照)に立ち返り、得られたクラスターを統合し、類似した性質を持つガーデナーグループをまとめることを試みた。まず20のグループのうち、他と明確な差があり、データの傾向に特徴を持つグループとして、A、B、C、K、M、Qの6つを選んだ。これら6つのグループを中心とし、それぞれのグループに類似距離の近いもの、またデータの性質が極めて近いと判断した他のグループについてクラスターの統合をおこなった。

クラスター分析後、主観によりクラスターの統合等を行ったため、これらの結果はタイプ分けの統計的確実性は低いと思われる。しかし、タイプ分け後、考察の過程でタイプごとの性質があらわれたため、本分類は意味あるものとして採用することと判断した。

4-2-2 一次審査通過者タイプ別の概要

クラスター分析での類型化に基づくタイプ分けにより、花かざりコンクール一次審査通過者を6タイプに分類した(表4-4)。各集団の庭づくりに対する動機と庭づくりの際の留意点に関する記述の特徴より、「サービスタイプ」、「交流タイプ」、「モノづくり・こだわりタイプ(以下こだわりタイプ)」、「モノづくり・マイペースタイプ(以下マイペースタイプ)」、「作品づくり・展示タイプ(以下展示タイプ)」、「作品づくり・創作タイプ(以下創作タイプ)」と名づけた。

表4-4 一次審査通過者タイプ(該当クラスターについてはAPPENDIX - 参照)

タイプ		人数	該当クラスター	庭づくりの動機	庭づくりの留意点
サービスタイプ		14人	A・J・S	道行く人の癒し 街の景観向上	・景観こやや強いこだわり
交流タイプ		24人	B・O	周囲の反応 近所や知らない人との交	・景観こやや強いこだわり
モノづくりタイプ	こだわりタイプ	44人	C・D・E・F・G・H・I・P	育てる喜び 計画するのが楽しいゆと りのある生活	・景観こやや強いこだわり ・モノこ強いこだわり
	マイペースタイプ	13人	Q・R・T	生活の一部 計画するのが他の市	・特こだわりはない
作品づくりタイプ	展示タイプ	10人	K・L	美しさから得る喜び	・景観こ強いこだわり
	創作タイプ	43人	M・N	育てる喜び 庭をきれいに保つこと	・景観こ強いこだわり

(1) サービスタイプ (14 人)

サービスタイプは、花かざりや庭づくりを、自分のためはもちろん、通行人や近所の人
の目を喜ばせることを強く意識して行っている。また、自らの花づくりが街の景観向上に
役立つことを強く確信して、積極的に活動しているタイプでもある。プランターやハンギ
ングバスケットといった飾り道具を多用するなど、景観にも留意しながら庭づくりを行っ
ている。

(2) 交流タイプ (24 人)

交流タイプは、自分の庭に対する身近な人の反応や、近所やそれまで知らなかった人と
の、花や自身の庭を通じての交流を楽しみとして、庭づくりを行っている。色やデザイン
など景観面にやや強いこだわりを持っている。

(3) モノづくり・こだわりタイプ (44 人)

モノづくり・こだわりタイプは、植物を育てることの喜び、庭づくりを計画することの
楽しみとして花づくりを行っているタイプである。庭づくりにおいては、景観面も気にす
るが、それよりもお金をかけない、廃物利用、環境に配慮するなど、モノを作る過程でな
んらかの強いこだわりをもって熱心に取り組む傾向にある。

(4) モノづくり・マイペースタイプ (13 人)

モノづくり・マイペースタイプは、何を植えるかなど、庭づくりを計画することに楽し
みを感じ、モノを作る過程に熱中しているタイプである。庭づくりにおいては特にこだわ
りはなく、生活の一部として花かざりを自分のペースで楽しんでいる。

(5) 作品づくり・展示タイプ (10 人)

作品づくり・展示タイプは、庭や植物の美しさに価値を見出し、庭や花を一つの作品のよう
にみてるような花づくりを行っているタイプである。色、デザイン、飾りの道具など、景観
面にかなり強いこだわりを持っている。

(6) 作品づくり・創作タイプ (43 人)

作品づくり・創作タイプは、庭や植物の美しさから得る喜びとともに、庭をきれいに保
つこと、緑を絶やさないうことなどを動機としているタイプである。色、デザイン、飾り方
など景観面に特に強いこだわりを持っており、それらを追求することを楽しんでいる。展
示タイプが「美しい作品」そのものに庭づくりの重きを置いているのに対し、創作タイプ
は「美しい作品を作ること」に重きを置いている。

4 - 2 - 3 一次審査通過者タイプと通過者の属性

次に、各タイプの差を計るために、応募用紙の自己PR欄以外の基礎的データの記述から各タイプ別の属性をみる。

(1) 属性

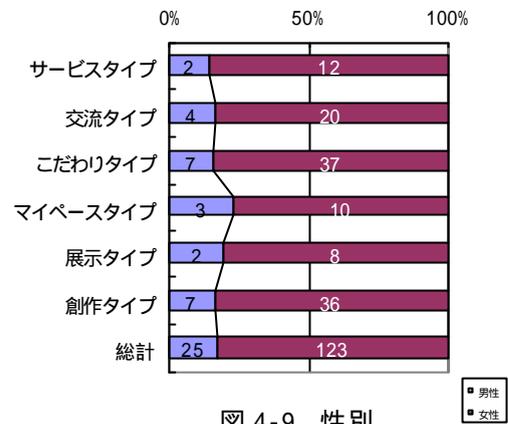


図 4-9 性別

花かざり実施人数

² 検定による差異は認められず、タイプごとに大きな差は見られなかった(図 4-10)。しかし、モノづくりタイプ、作品づくりタイプともに、なんらかのこだわりをもって活動する「こだわりタイプ」、「展示タイプ」のほうが、一方の「マイペースタイプ」「創作タイプ」に比べてより1人で取り組む傾向にあるといえる。前者が単独目標達成型とすれば、後者は団欒型の傾向が強いと考えられる。

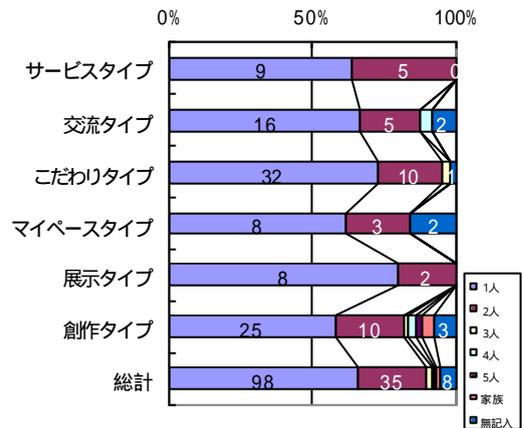


図 4-10 花かざり実施人数

年齢

² 検定による差異は認められず、タイプにより大きな差はみられなかった(図 4-11)。

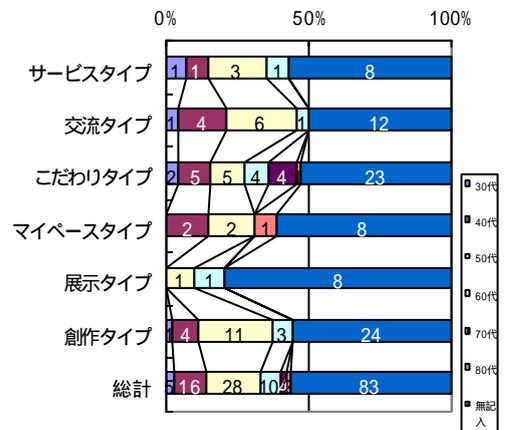


図 4-11 年齢

花かざり歴（ガーデニング歴）

²検定による差異は認められず、タイプによる大きな差は見られなかった（図 4-12）。サービスタイプは、ガーデニング歴「10年以上」のガーデナーが多い。比較的ガーデニング歴の長いサービスタイプは、ガーデニングを長く続けることにより、地域でも広く親しまれるため、自然とサービス精神が身についているのではないだろうか。

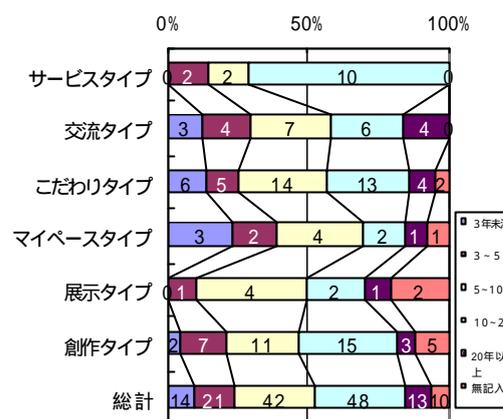


図 4-12 花かざり歴

応募の形態（推薦者の有無）

²検定による差異は認められず、タイプによりそれほど大きな差はみられなかった（図 4-13）。他薦の場合、その多くは地元市町村関係者が推薦者となっている。サービスタイプにやや他薦が多い理由は、その庭に基づく景観向上の効果が地域でも広く知れ渡り、話題に上るため、評判などがコンクール参加を呼びかける役所などの耳に入りやすいためと考えられる。

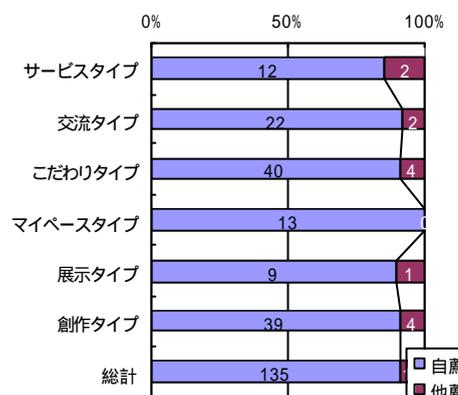


図 4-13 応募の形態

（2）タイプ別平均コメント数

各タイプの平均コメント数をみると、最も多く記述しているのは創作タイプで、逆に最も少ないのはサービスタイプであった（表 4-5）。タイプ別にみた記述内容の内訳は図 4-15 のようになっている。特徴があるのはマイペースタイプであり、動機に関する記述が非常に多い。また、展示タイプは留意点や実際の手入れなど取り組みに関する記述が多い。サービスタイプ、交流タイプ、こだわりタイプについては似たような傾向がみられた。

表 4-5 タイプ別にみた平均コメント数

タイプ	サービスタイプ	交流タイプ	モノづくりタイプ		作品づくりタイプ	
			こだわりタイプ	マイペースタイプ	展示タイプ	創作タイプ
平均コメント数	7.21	9.67	9.20	7.38	7.30	9.98

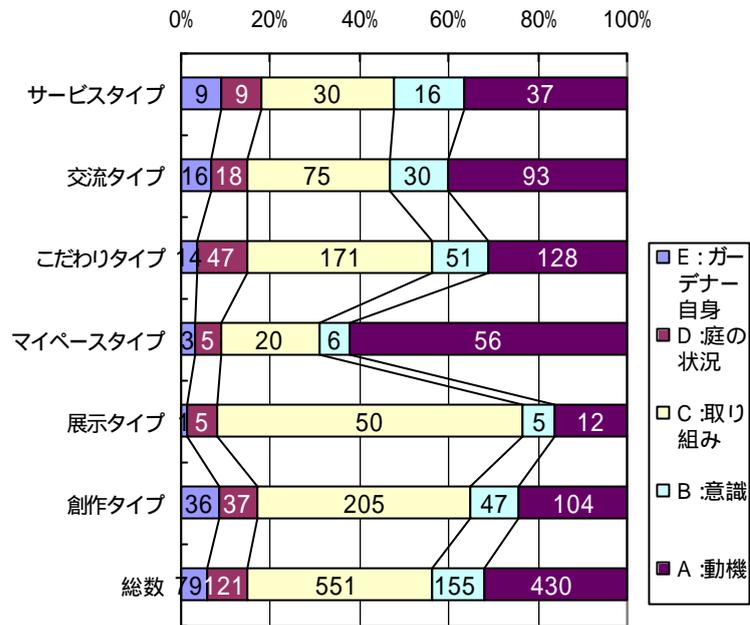


図 4-15 タイプ別にみたカテゴリー別記述数

4 - 3 タイプ別にみた一次審査通過者の意識特性

4 - 3 - 1 ガーデニング（庭づくり）に対する意識

(1) 全体的な傾向

本節では、庭づくりの際ガーデナーが何を重視しているか、記述カテゴリーの中から「庭づくりの動機」に注目して、考察を行った（表 4-6）。これらは、タイプ分けの際、変数に用いたカテゴリーであり、タイプによって差が生じると予想される。また、動機に関する記述について、タイプ別にみた平均コメント数は、マイペースタイプが最も多く、展示タイプが最も少なくなっている（図 4-15）。図はタイプ別にカテゴリー別の平均記述数を表したものである。サービスタイプ、交流タイプ、マイペースタイプは、他に比べ特に目立った偏りがみられる。

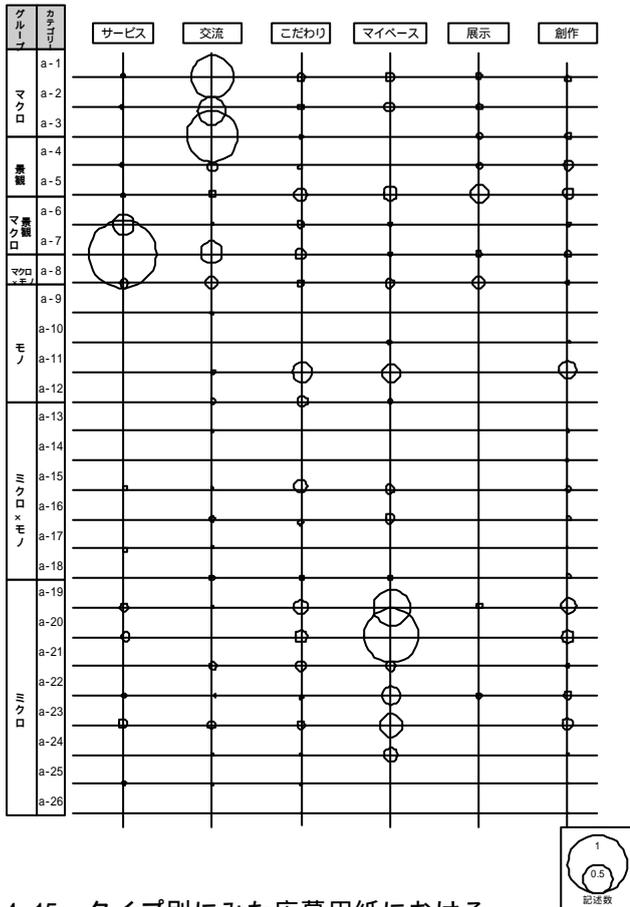


図 4-15 タイプ別にみた応募用紙における庭づくりにおける動機に関する平均記述数

(図中のカテゴリーの記号(例 a-1)はすべて表 4-6 を参照)

表 4-6 庭づくりの動機に関する記述カテゴリー（記述例については表 2-5 参照）

大カテゴリー	グループ	カテゴリー
A 庭づくりの動機	マクロ	a-1 庭に関する話し相手の影響・周囲の反応を楽しみにしている
		a-2 近所の人たちとの対話(日常)
		a-3 見学者・知らない人との交流(非日常)
	景観	a-4 庭をきれいに保つこと・緑を絶やさない・見飽きない
		a-5 植物や庭の美しさから得る喜び・花が好き
	マクロ×景観	a-6 街の景観の美しさへの貢献
		a-7 道行く人の目を楽しませる・癒し
	マクロ×モノ	a-8 ものやり取り
		a-9 収穫の楽しさ
	モノ	a-10 生花やドライフラワー・リース・押し花・ハガキを作る楽しみ
		a-11 育てる喜び・楽しさ
		a-12 友人や家族とともに活動する楽しさ
	ミクロ×モノ	a-13 自然に親しみ学ぶこと
		a-14 土に触れることの楽しさ
		a-15 ゆとりのある生活・花に囲まれた暮らし・庭の改造
		a-16 健康のため 老化予防・リハビリ
		a-17 自分自身の食べ物を得る喜び
		a-18 生命力が感じられる
	ミクロ	a-19 計画するのが楽しい・自分の思いを表現・自分なりの楽しみ方
		a-20 自分の趣味の一つ・生活の一部・ライフスタイル
		a-21 できあがったときの喜び・達成感
		a-22 もてなしの場を作る・花談義
		a-23 心の安らぎ・リラックス・やさしい心を育てる・くつろぎ
		a-24 日常生活の気晴らし・ストレス解消
		a-25 四季が感じられること
		a-26 外で過ごす気持ちよさ

表 4-7 タイプ別にみた「庭づくりの動機」平均コメント数

タイプ	サービスタイプ	交流タイプ	モノづくりタイプ		作品づくりタイプ	
			こだわりタイプ	マイペースタイプ	アピールタイプ	自己満足タイプ
平均コメント数	2.64	3.88	2.91	4.31	1.20	2.42

(2) タイプ別考察

続いて、庭づくりの動機についてタイプ別にみた考察を行う。

サービスタイプ

図 4-15 からわかるように、サービスタイプは、庭づくりにおいて「マクロ×景観」のグループである「街の景観の向上(a-6)」、「道行く人の癒し(a-7)」に大きく動機を持っていることがわかる。まずガーデナー自身が花に対して癒しを得ており、さらにそこから、それらの生み出す景観を「おすそ分け」したいと思うマクロ的な気持ちがはたらいっているものと考えられる。自分のためだけでなく、他人のことも考慮しながら花づくりを行っているタイプである。

表 4-8 サービスタイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
街の景観向上 (a-6)	■「自分の家だけでなく、近所の50人様にも自分で作った苗を配って地域全体を花でいっぱいしています。」	年齢無記入・女性
	■「岐阜県を花の都岐阜を推し進めるため頑張って参加しました。」	年齢無記入・女性
道行く人の癒し (a-7)	■「通行中の人・車が歩みをとめて美しく咲いた花を見てくれるのが楽しみ。」	年齢無記入・男性
	■「見てくださる『いつも、きれいね。』の声に励まされ、自分だけが花に心を癒してもらっているのではないと感じ・・・」	36歳・女性
	■「オープンにして道行く人々に楽しんでいただければと、花かざりに心がけています。」	53歳・女性
	■「狭い場所ですがいつも花を取り替えて、皆さんに楽しんでいただくよう努力しています。」	54歳・女性
	■「自宅が町道沿いなので道行く人たちの心を和ませているのではないかと思っている。」	年齢無記入・女性
	■「花が好きで1人でも多くの人に楽しんでもらいたいと思い花かざりを始めました。」	年齢無記入・男性
	■「道行く人や訪問者の目を楽しませることができればと花かざりを始めました。」	47歳・女性
	■「最近道を行き交う人たちにも楽しさや美しさをおすそ分けする気持ちで行っています。」	59歳・女性
■「『一瞬の間』でも心が和み、穏やかな気持ちになれることを願う・・・」	59歳・女性	

交流タイプ

交流タイプの特徴も、庭づくりの動機に明確に表れている（図 4-15）。表 4-9 の記述に見られるように、「日常的に行われる近所の人たちとの対話（a-2）」やまた「見学に訪れる人との花を通じた交流（a-3）」などを楽しみに活動している。

また、「路線バスのおりに面しているので数多くの人々に見ていただけるので苦勞な面を楽しみに変えて頑張っております。」（54 歳・女性）、「小学校の通学路にもなっているのが子供たちが喜んでくれるようなふうにしようと思い努力しているのですがなかなかうまくいきません。」（年齢無記入・女性）など、サービスタイプの特徴の一つである「道行く人の癒し（a-7）」を動機として活動しているガーデナーの記述も見られる。サービスタイプ同様、マクロ的な視野を持ったタイプであると思われる。サービスタイプが人のために意識して「景観」を作ること奉仕しているのに対して、交流タイプは、周囲の反応が励みになり、それが自己の花づくりに還元されるタイプといえる。また、「株分け・苗分け」など、サービスタイプよりも「モノ」を通じた奉仕をより重視しているのも特徴である。しかし、見学者についての記述が他のタイプに比べて多いということは、景観としても注目度が高いことがうかがえ、比較的景観として優れている集団であることが予測される。

表 4-9 交流タイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
見学者やそれまで知らなかった人との交流(a-3)	■「ついさっきまで面識のなかったもの同士が一緒にお茶を飲むとは花あればこそです。」	54歳・女性
	■「花によるご縁で知り合った方の輪が広がっていき、世界も広がり、地域で生きていく人の心のふれあいへとつながっていく感動も大きなものです。」	年齢無記入・女性
	■「全く知らない方が『きれいですね』と声をかけてくださり次第に会話を交わすようになりました。そしてまたその方の花好きのご友人と再び訪ねて下さったりという繰り返して、人の輪が広がっていきます。」	年齢無記入・女性
	■「毎年見学に来ていただける延べ600～700人のお客さんが楽しみに待っているからと・・・」	年齢無記入・男性
	■「噂を聞いて皆さん見に来てくださるので励みになります。」	52歳・女性
	■「花が縁で大きな花の輪が本当に広まってきました。」	年齢無記入・女性
	■「地域の人が花をよく見に来てくれます。」	年齢無記入・女性
近所の人との花を話題にした対話・交流(a-2)	■「年々花の種類も増え、地域の人たちとの花を通じ交流のコミュニケーションを図っています。」	61歳・男性
	■「15年花かざりをしているので花を見に愛好者が多く訪れ花とのふれあいが広がる輪が増えました。」	61歳・男性
	■「(近所でも花かざりの方が多くなり)水やり時など通りがかりの人との会話ははずみます。」	45歳・女性
	■「地域のコミュニケーション作りにはよいことだと思います。」	45歳・女性
	■「道行くお年寄りなどは足を止めて花づくりの話に花が咲きます。」	53歳・女性
	■「栽培方法などをよくたずねられますので私なりの育て方を教えてあげています。」	53歳・女性
	■「近所の人や家の散歩で寄って来たり花好きの人たちと花の話題で盛り上がりたりと年齢の差を越えて知り合いの方が増えました。時には知り合いの又その先の知り合いの方と楽しい交友関係が広がります。」	年齢無記入・女性
周辺住民など庭に関する話し相手の反応(花かざりをしていない人との交流)(a-1)	■「まわりの人たちが喜んでくださるので嬉しいです。」	年齢無記入・女性
	■「少しずつ始めた花かざりも、『おはようございます。きれいですね。ここを通るのが楽しみなのよ。』と言われ、励まされて年々エスカレートしています。」	年齢無記入・男性
	■「まだまだ初心者のため大掛かりはできませんが、人々に喜ばれ、嬉しく思っています。」	49歳・女性
	■「今年はやめようかなどと話し合いますが、近所の皆さん街の皆さんから〇〇さんの庭の花を見るのを楽しみにしていると伺いますと、ついついやめることができず、ついつい花鉢も多くなります。」	年齢無記入・女性
	■「通院されている方が病院へ行くのは気がはれないが〇〇さんの家の前を通るたびに花を見ると心が和むと言われ嬉しかったこと。」	年齢無記入・女性
モノのやりとり(a-8)	■「(苗を)友人たちと交換したり、親戚や近所の人に差し上げたりして花づくりの輪を広げています。」	53歳・女性
	■「増やした苗などはご近所の人たちに差し上げて、花の輪を広げています。」	52歳・女性

こだわりタイプ

44人からなるこのタイプは、庭づくりの動機についての記述が広く分散する結果が見られた(図4-15)。すなわち、こだわりタイプは、他のタイプに比べて、多様な動機を持って庭づくりをしていることになる。しかし、その多くがモノ、ミクロ×モノ、ミクロの3つのグループに分布していることから、ミクロ的な視野を持つ傾向の集団であることが予測される。

こだわりタイプの中で記述数が多いものは、「育てる喜び(a-11)」である。また、他のタイプに比べ、「ゆとりのある生活(a-15)」「計画する楽しみ(a-19)」が若干高い記述数となっており、モノを作る過程を楽しみながら庭づくりを行っている傾向がうかがえる。

また、それら以外の他のカテゴリーの記述についても、**気分転換にとてもよいと毎日楽しみに手入れをしています。花は特に朝元気がよくて、私自身も早起きできて健康的です。**(年齢無記入・女性)や**「転勤族ではあったけど花のおかげでさみしいつらい思いは一度もなく花を通じて年の差も関係なく何人の人たちと接してきたことか」**(年齢無記入・女性)など、花づくりが自分自身に強く還元されている様子がうかがえる。また、「**苗の交換を近所の方とすることによって種類を増し、みんなで鑑賞すること、コミュニケーションにもなる**」(年齢無記入・女性)といった「モノ」を通じた交流を望んでいる人も見られる。こだわりタイプは、ミクロ的視野を持ち、モノを重視した集団であるといえる。

表4-10 こだわりタイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
育てる喜び (a-11)	■「一年中花を育てて楽しみたいです。」	39歳・女性
	■「自分で種から育てた苗はかわいさもまた十二分」	59歳・女性
ゆとりのある生活 (a-15)	■「すばらしい花をつけてくれたときには1人満足しています。」	年齢無記入・女性
	■「種まきから始め、苗の成長を見守り開花の状態を想像しながら育てること」	年齢無記入・女性
	■「以前から花に囲まれた生活をしてみたくなって・・・」	年齢無記入・女性
	■「季節ごとの花と緑にかこまれた自然を満喫しながら幸せな毎日を過ごしています。」	年齢無記入・女性
健康のため (a-16)	■「花かざりをする場所はとても狭いですが、花が好きな私は一年中花を咲かせてみたいです。」	年齢無記入・女性
	■「転勤族ではあったけど花のおかげでさみしいつらい思いは一度もなく花を通じて年の差も関係なく何人の人たちと接してきたことか・・・」	年齢無記入・女性
	■「気分転換にとてもよいと毎日楽しみに手入れをしています。花は特に朝元気がよくて、私自身も早起きできて健康的です。」	年齢無記入・女性
	■「リハビリのために始めたことが数え切れないくらい花が咲いてくれるようになり、苦労したこともなんのその」	年齢無記入・女性

マイペースタイプ

マイペースタイプは、動機に関する記述が最も多く（表 4-7）、その多くが ミクロのグループに集中している（図 4-15）。ミクロの中でも特に、「生活の一部（a-20）」「計画する楽しみ（a-19）」といったカテゴリーに記述が集中している（表 4-11）。こだわりタイプと同じように、できあがった景観よりも、それを育てる過程により強い関心を持って庭づくりを行っているタイプであるといえる。また、他のタイプと比べて、「もてなしの場を作る（a-22）」という動機の記述が多くなっている。「近所の人たちとの交流（a-2）」での交流が不特定多数とのコミュニケーションであり、マクロ的視野であるのに対し、「もてなしの場を作る（a-22）」は家族や友人など限られた人のみへの還元であって、ミクロ的な視野である。また「喘息持ちなので健康を作りたいの一心で頑張っています。」（無記入・女性）や、「趣味に生きるよろこびのうちにも高齢ゆえに今日を今を大切にしています。」（80歳・女性）など、健康のために花づくりを行っている人もこのタイプにやや多い。ミクロ的視野でモノを作る過程を楽しんでいる集団であるといえる。

表 4-11 マイペースタイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
生活(ライフスタイル)の一部・趣味の一つ(a-20)	■「私の元気の源は家族となんといっても花。」	59歳・女性
	■「起床に続いて花いじり。昨日咲いた花にありがとうと花柄を摘み、朝霧に光る今日の花に喜びと愛着をそして明日に咲く花に期待を寄せながら・・・」	80歳・女性
	■「毎朝すべての花と『アイサツ』を交わします。私の一日はここから始まります。」	52歳・女性
	■「まさに花に明け暮れる毎日です」	52歳・女性
	■「これからも花のようにきれいで優しい心をもった後半の人生が花とともに送れたらいいなと願う。」	52歳・女性
計画する楽しみ(a-19)	■「どこにもない、自分たちだけの庭を作っていきたいと思えます。」	年齢無記入・男性
	■「それぞれの花に見とれ、次はどの花にしようかなと妄想。」	80歳・女性
	■「三坪ほどの庭であれもこれも・・・とはさみこんでいます。」	年齢無記入・女性
心の安らぎ(a-23)	■「毎日庭の花を眺めながらの夕涼みは何よりの安定剤」	年齢無記入・女性
	■「花が満開になったときの喜びは大きく、見ていると心が和みます。」	年齢無記入・男性
育てる喜び(a-11)	■「種から蒔いて生育したものがありますので、その成長は子育てしているようでとても楽しい。」	年齢無記入・女性
	■「かわいがっていただければ答えてくれるので自己満足のこのごろです。」	年齢無記入・女性

展示タイプ

庭づくりの動機に関する記述が極端に少ないのが展示タイプの特徴である（表 4-7）。しかしその中でも、「植物や庭の美しさから得る喜び（a-5）」を動機とする人が比較的多い（表 4-12）。グループ別にみると、景観に関するカテゴリーに記述が集まる傾向にあり（図 4-15）きれいな

なものへの関心が高く、それらから満足度を得ている集団であるといえる。

表 4-12 展示タイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
植物や庭の美しさから得る喜び (a-5)	■「彩りのよい庭ができたし、花の見栄えがよくなった。」	年齢無記入・男性
	■「石垣をきれいにするために植えた芝桜がここまで成長し、水辺を美しく飾ってくれています。」	年齢無記入・男性

創作タイプ

展示タイプ同様、動機に関する記述は少ない(表 4-7)。それでも、創作タイプの中では「育てる喜び(a-11)」と「計画する楽しみ(a-19)」が若干多くなっている。グループに注目してみると、展示タイプ同様、景観、ミクロのグループに記述が集中する傾向にある。また、「自身の庭をきれいに保つこと」のカテゴリーについては、創作タイプが他のタイプに比べて最も記述数が多くなっている。展示タイプが「きれいなもの」に満足するタイプであるのに対し、創作タイプは「きれいなものを作ること」に意義を見出しているタイプであるといえる。

表 4 - 13 創作タイプにみられる庭づくりの動機に対する記述

カテゴリー	具体的な記述	年齢・性別
育てる喜び (a-11)	「このちょっぴりくたびれた苗を大きくきれい育てるのが楽しみです。」	49歳・女性
	「愛情で育てればそれ以上になって私の心に帰ってきます。」	年齢無記入・女性
	「昨年咲かなかった花が咲いたり、古株から新芽が出たりこぼれ種が芽が出たりと毎日が感動です。」	(51歳・女性)
計画する楽しみ・自分なりの楽しみ方 (a-19)	「田舎だからこそできる楽しみ方があり・・・」	年齢無記入・女性
	「とっても楽しく本業を忘れるくらいでやっています」	52歳・女性
	「寒いのも気にならず、毎日頭の中と目で空想しながら・・・」	57歳・女性
自身の庭をきれいに保つこと (a-4)	「花や緑に囲まれた住空間作りを心がけ・・・」	年齢無記入・女性
	「とにかく家のまわりを花でいつもいっぱいしておきたいという気持ちでやっています。」	年齢無記入・女性
	「花がいつもたくさんあるように努力しています。」 「できるだけ変化のある見飽きない・・・」	年齢無記入・女性 43歳・女性

(3) まとめ

サービスタイプ、交流タイプはマクロ的な視野を持って庭づくりを行っているタイプであるのに対して、こだわりタイプ、マイペースタイプは、ミクロ的な視野で庭づくりを楽しんでいるタイプである。またこだわりタイプとマイペースタイプは、モノを作る過程を楽しむ事を動機とする傾向があるモノづくりタイプである。一方、展示タイプと創作タイプは、作品としての庭の美しさに満足度を得る作品づくりタイプのガーデナーの集団である。

4 - 3 - 2 庭づくりに対する意識

本項では、一次審査通過者の庭づくりに対する意識を考察する。一次審査通過者が庭に求めているものはなにか、庭の何を重視して庭づくりを行っているのかを、記述カテゴリーのうち「庭づくりの留意点」などから探る。さらに、それらよりコンクールへの指向や環境問題への関心などを読み解き、一次審査通過者が庭に対して抱く意識を総合的に導き出すことを目的とする。

(1) 全体的な傾向

庭づくりの留意点に関する記述の分布

応募用紙記述のうち、庭づくりの留意点に注目した。庭づくりの留意点に関する記述を、景観とモノに分けて分類することで、ガーデナーがそれぞれ何に留意して庭づくりを行っているか、すなわち、庭で何を重視しているかを推測することができる。

図 4-16 は、庭づくりの留意点に関する記述をカテゴリー化したものを、タイプ別の平均記述数として図に示したものである。全体的にみると、展示タイプと創作タイプの景観の中でも特に飾り方の工夫、演出のための小道具などへのこだわりが目立つ。

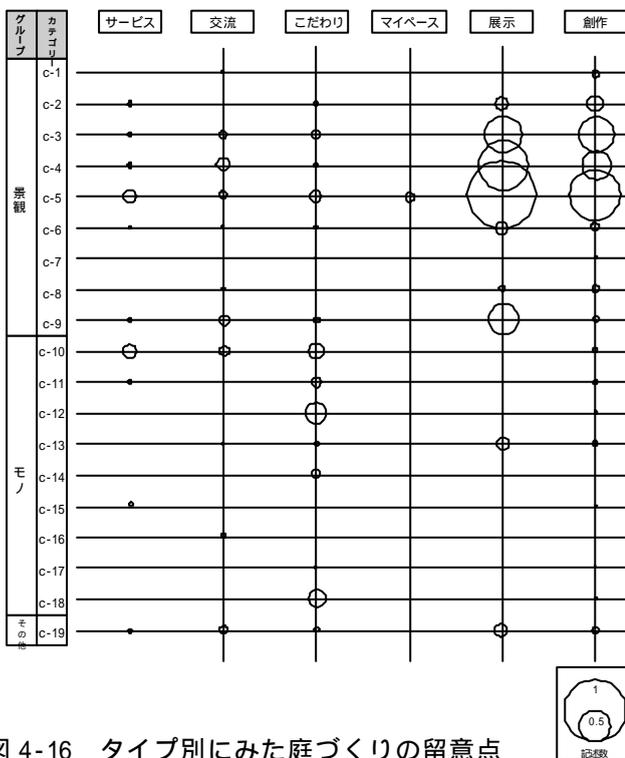


表 4-14 庭づくりの留意点に関する記述カテゴリー

大カテゴリー	グループ	カテゴリー
C 庭づくりへの 取り組み	庭づくりの留意点	景観
		モノ
		その他

図 4-16 タイプ別にみた庭づくりの留意点に関する平均記述数
(図中のカテゴリーの記号(例c-1)はすべて表 4-14 を参照)

実用作物の栽培に関する記述数

次に、ハーブや野菜など実用作物についての記述数の割合に注目した（図 4-17）。² 検定では、タイプとの関係性はみられない。

数人のガーデナーへのヒアリングからは、ハーブや葱などの手軽な野菜を、畑やコンテナなどで栽培する人は多い印象を受けた。記述の有無は栽培状況の有無ではなく、コンクールに応募する際、ガーデナーが実用作物を自分の庭のアピール材料とみなしていないものと考えられる。

しかし、「ベジタブルガーデンもおしゃれに・・・」（交流タイプ・54歳・女性）といった、実用作物といっても景観の一部として考えている人も存在する。

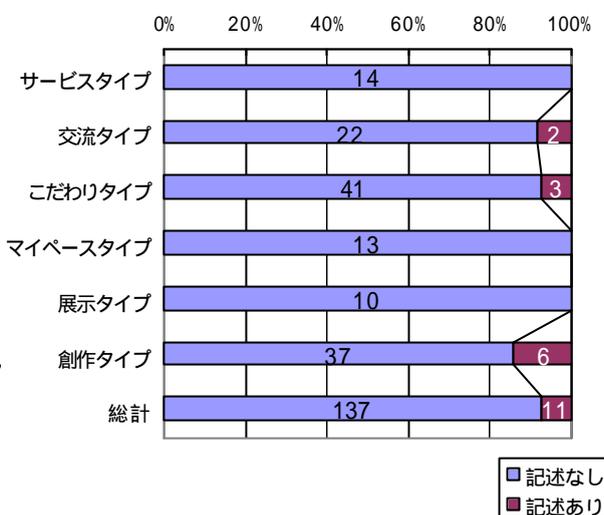


図 4-17 実用作物の栽培に関する記述

環境に配慮したコメント

次に、「リサイクル品を利用（c-10）」、「環境に配慮（c-11）」、「家庭で肥料を作る（c-33）」というカテゴリーに注目した。これらを環境に配慮した活動に関する記述（環境に配慮したコメント）として設定し、その中でいずれかの記述があるものを1として数え、環境コメントの「有無」をみたものが図 4-18 である。環境に少しでも配慮したガーデナーがどれくらい存在しているかをみるため、ここでは記述数を換算せず、環境に配慮した記述があるかどうかを考察した。

ガーデナータイプと環境に配慮した記述の有無については²検定により、3%の有意で関係性が認められた。環境に配慮したガーデニング活動を行っている人が多いのは「こだわりタイプ」であり、逆に環境に配慮したガーデナーが最も少ないのは「マイペースタイプ」と「展示タイプ」であった。

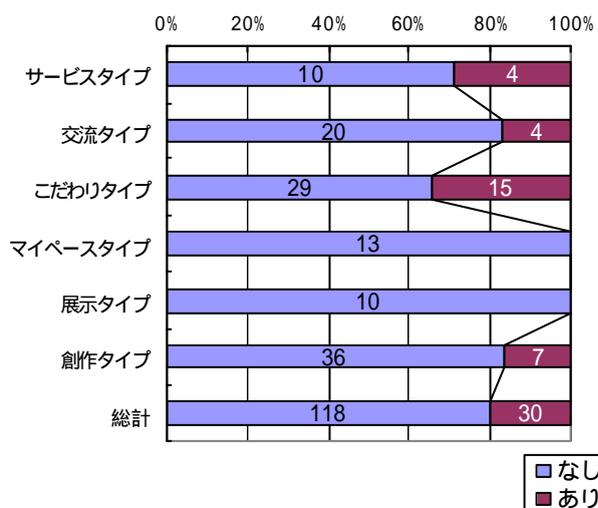


図 4-18 環境に配慮したコメント記述の有無

(2) タイプ別考察

続いて、庭づくりの留意点についてタイプ別の考察を行う。

サービスタイプ

サービスタイプは、全体的に見るとモノよりは景観に若干強いこだわりがあるが、留意点に関する記述そのものが少ない(図4-16)。「道路沿いには手作りのトレリスのフェンスやアーチにつるばらを植え付け・・・」(47歳・女性)や「子供の頃に使用していた日常生活用品を花器としたり花台として・・・」(59歳・女性)など飾り方に関する記述がみられる(図4-19)。

環境に配慮したコメントについては、30%もの人が何らかのコメントをしている(図4-18)。例えば「リサイクル用品を活用して・・・」(年齢無記入・女性)や「使用済みの洗剤容器をプランターに、古タイヤをフラワーカバーにと工夫して・・・」(59歳・女性)といったリサイクル品の利用に関するもの、「自然からの恵みは自然に返す。」(53歳・女性)や「生ゴミは処理機を使用後肥料にします。」(53歳・女性)といった自然を意識したものなどである。環境を意識して徹底的に活動しているというよりは、お金をかけないためという節約的な意味合いが強いという印象を受ける。徹底的なこだわりや行動はみられないが、環境問題をガーデニングという身近な場で意識し実践しているガーデナーを含む集団であると考えられる。



図4-19 「タンス」の中に花を飾る

交流タイプ

庭づくりの留意点に関しては、サービスタイプと同様に、特に目立った傾向はないが、モノそのものに対する配慮よりは、色や飾り方など景観についての留意点が比較的多い(図4-16)。「一番気を使っている点は色使いです。」(47歳・女性)など色のコーディネートや、「限られた空間に絵を描くように全体のバランスを取っています。」(47歳・女性)といった家屋とのバランス、また「5月からは夜ライトアップしています。」(52歳・女性)というような演出に関する記述もみられる。

20%ながらも、環境に関するコメントもみられる。「15,6年前から生ゴミは出したことがなく自分の花ために基礎となる土作りをしているので・・・」(年齢無記入・女性)や「リサイクルでは、自分で土をリサイクルして作っています。」(49歳・女性)など、土作りに関する記述が目立つ。特に強く環境問題を意識して行動しているわけではないが、土づくりなど何らかのこだわりをもちガーデニングを行うことが、結果として環境に配慮したガーデニングになっているものと思われる。

こだわりタイプ

こだわりタイプは、景観面よりも、「リサイクル」や「節約」などモノを重視して庭づくりを行っているタイプである。庭づくりの留意点に関する記述を見ても、他のタイプとは異なった傾向を見ることができる(図4-16)。このタイプに属する多くの人が「プランターの土はすべて自分で作っている(肥料・生ゴミ等を利用・すべて独学で工夫している)」「(年齢無記入・女性)」「環境対策として生ゴミコンポストによる堆肥、除草した草の堆肥を作り、肥料として還元しています」(48歳・女性)「ほとんどの花は種からとっており、例えば買ってきても翌年にはその花から種を取って苗を作っている」(年齢無記入・女性)など、土や肥料作り、種作りなどにこだわっており、特に「お金をかけない」という点を重視している人が多い。

環境に配慮したコメントの記述も6タイプ中最も高い(図4-18)。「私たちの『もったいない』精神はけっこう徹底しています。」や「暖炉から出た灰は草花・ハーブに、枯草・雑草・生ゴミは木製コンポストで堆肥にして土に還元するなど、エコロジー・エコノミーを実践しています。」(47歳・女性)といった記述からうかがえるように、はっきりと環境を意識した「エコ・ガーデナー」が存在する集団である。「地域にあった金をできるだけ使わず種子等も自分で種子を取り自分で育て環境と風土を活かした、リサイクル等を利用し費用をかせず努力して・・・」(80歳・女性)とは、その特徴を最も的確に表した記述である。

「コーディネートも大切ですが自然に咲かせるのが一番いいと思います。」(年齢無記入・女性)といった、景観にあまり固執しない人が存在している集団でもある。

マイペースタイプ

留意点に関する記述は特になく、文字通りマイペースに庭づくりを行っている。環境に配慮したコメントに関しても全く記述がなく、環境問題に関して興味や関心がないことがうかがえる。

展示タイプ

デザイン、色、飾り方(図4-20)の工夫など、景観についての留意点に関する記述が極端に多いのが展示タイプの特徴である。「樹木の緑を生かしたことで花色が一層引き立っていると思います。」(年齢無記入・女性)「花かざりは中央にヤマボウシ、沙羅双樹と配し、それをとりまく形で宿根草や季節の草花をコンテナやハンギングを花かざりをしている。」(年齢無記入・女性)



図4-20 乳母車を使った花かざり

というように、記述の表現についてもコンクールを意識し、アピールしているような印象を受ける。環境に配慮したコメントについては全く見られず(図 4-18) 環境に関してはあまり関心がない集団であると推測される。

創作タイプ

展示タイプと同様に、色やデザイン、飾り方に関する記述が多い(図 4-16)。ワングングバスケットや寄せ植えコンテナは高低差をつけるアクセントしての役割で立体構成の助けとして使い、あくまで自然観を損なわないように気をつけます。」(年齢無記入・女性)や、他のところにはないようなオリジナリティーを出しています。」(年齢無記入・女性)など、飾り方に独特のこだわりを持つガーデナーが存在している。また、**新しい種類の草花も積極的に取り入れ、・・・**」(年齢無記入・女性)という新しい素材への興味や、「一年中花いっぱい庭でありながら派手にならないよう、**配置などに気をつけています。**」(59歳・女性)といった配置やバランスを重視するなど、景観に関してのこだわりは徹底しており、展示タイプと同様に、コンクールへの指向も強いと思われる。

環境に配慮したコメントについては、**それぞれの場所に適した場所を見つけて配置してやると植物自らが自然を作り上げてくれそれは心安らく空間となり、優しく包み込んでくれます**」(年齢無記入・女性)や、**自然のものを生かすことができるのは人しかありません**」(年齢無記入・女性)といった自然志向的な記述のほか、「**生ゴミ、卵の殻、コーヒー豆かす等土に帰して利用し、・・・**」(51歳・女性)などといったリサイクルに関する記述がおおよそ 20%弱の人にみられる。

(3) まとめ

「展示タイプ」, 「創作タイプ」とともに景観へのこだわりが他のタイプに比べ特に強く、景観を審査するコンクールをやや強く意識した集団であるといえる。

また、タイプと環境に配慮したコメントの記述の有無については²検定により関係性が認められた。「こだわりタイプ」のガーデナーには積極的に環境問題に取り組む傾向がみられ、また「サービスタイプ」や「交流タイプ」や「創作タイプ」には、土づくりや肥料づくりなど、身近なところで環境に配慮し、積極的な関心や徹底的な行動は伴わないが、結果として環境に配慮した庭づくりとなっているガーデナーが存在した。それは環境への指向よりもお金をかけないためという理由が一番の動機であり、環境に配慮することを第一の理由に熱心に取り組む「エコ・ガーデナー」は「こだわりタイプ」に数人しかみられなかった。

しかし、ガーデナーにとって、ガーデニングはリサイクルや自然の大切さなど、身近な環境問題を自然に認識できる場であり、楽しみながら環境問題と接していることがわかった。

4 - 3 - 3 公への意識

本項では、一次審査通過者の「公に対する意識」を探る。一次審査通過者が公に対してどういった意識を抱いているか、応募用紙の写真から「庭の形態」を、また応募用紙自己PR欄の記の中から、「ガーデナーが持つ資格」、「近所の庭への関心」、「庭づくりに望んでいること」、「自宅外での活動」の記述カテゴリーに注目し、それらとガーデナータイプとの関連性について考察を試みる。しかし、これらの記述カテゴリーについて、すべてのガーデナーが記述しているわけではないため、本考察はあくまで傾向をみるものでしかない。

(1) 全体的な傾向

庭の形態（開放度）

まず、応募用紙の写真から読みとることができる庭の形態とガーデナータイプとの関連性を考察した。外壁などがなく、庭を外からでも見て楽しむことができるか、公の道路や外壁の外側にもプランターなどを飾る「はみ出し」(図4-21)があるかという庭の形態の把握により、ガーデナーの庭が外に向かって開かれているかどうかについて分析した。ただし、応募写真からはその部分が十分には読み取れないものも多く、この考察結果はひとつの傾向を示すためのものに過ぎない。全体的にみて、一次審査通過者の庭は外に向かって開かれている形態が多いことがわかったが、庭の形態とガーデナータイプについては、²検定による関連性は認められなかった(図4-22)。



図 4-21 はみ出しの例

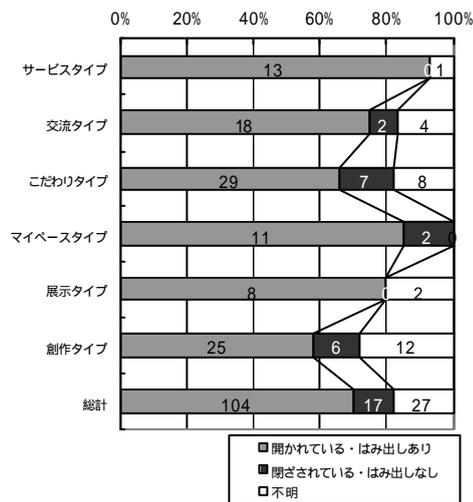


図 4-22 庭の形態

資格に関する記述

次に、ガーデニングに関連する資格についての記述を抜き出した。資格について記している人は5人だけであった(表4-15)。人数自体が少ないため、タイプ別の考察は行わない。

資格については、県が地域住民や各種団体の人が身近に相談でき、その助言・指導ができるように各市町村に設置した「花のアドバイザー」や、また各地域の景観の問題点について提言をおこなうとともに、景観づくり運動の広報、良好な景観の形成に関する諸行事への参加を促進するために設置された「美しいぎふ景観モニター」などがあつた。

次に、具体的な記述をみていく。ほとんどの場合資格が自分の庭づくりにのみ活かされているといえる。例えば、「日本園芸協会の『ガーデン・コーディネーター』の通信教育も修了証書を手にすることができました。この教育課程で得た知識は 自家用車 4 台の出し入れをスムーズに ベジタブルガーデンもおしゃれに庭に取り入れる、この二つの難問をクリアするのに助けとなりました。」(交流タイプ・54 歳・女性)「プランターをただ並べるだけの花かざりにはしたくないと思い寄せ植えにアレンジします(寄せ植え可動研究会の会員ですもの。)」(創作タイプ・年齢無記入・女性)といった記述にもあらわれている。しかし一部では、「今年は美しいぎふ景観モニターの一員として活躍しています。」(創作タイプ・年齢無記入・男性)など、資格を活かしながらまちに関わっているガーデナーも見受けられる。市町村などから資格を与えられることにより、まちに積極的に関わろうとする姿勢が強まるのではないだろうか。

表 4-15 資格に関する記述の例

タイプ	人数	該当者の自宅の敷地外での活動(人数)
サービスタイプ	1	町の花のアドバイザー
交流タイプ	1	ガーデンコーディネーター(日本園芸協会)
こだわりタイプ	0	
マイペースタイプ	1	寄せ植え華道研究会
アピールタイプ	0	
自己満足タイプ	2	・可児市都市景観基本計画策定懇話会委員/ 美しいぎふ景観モニター(1) ・寄せ植え華道研究会(1)

コミュニティへの関心度

次に、近隣の花づくり活動などへの関心についての記述を抽出した。近隣の状況への認識度と、それに対して自分はどのような花かざりを行っているかという姿勢をみた(図 4-23)。

二乗検定では、他人の庭やコミュニティへの関心度と、タイプとの関係性は認められなかった。展示タイプ、交流タイプ、サービスタイプの順でコミュニティへの関心度は高くなっていることがわかる。

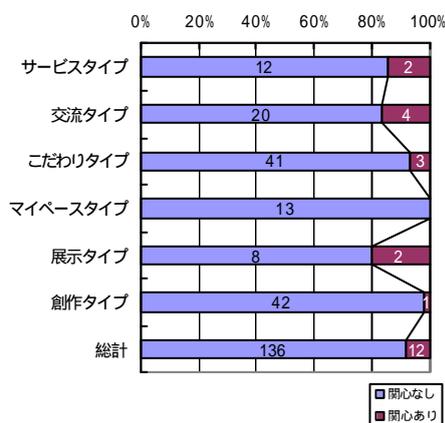


図 4-23 コミュニティへの関心

「私の団地は若い方が多く、子育てやお勤めの方が多く、花かざりをしている方がまだ少ないです。」(展示タイプ・年齢無記入・女性)や、「最近ではこの道に面した家の方々が

花かざりをしていらっちゃって、どの家も美しくお手入れして見えます。」(サービスタイプ 36 歳・女性)といった、近隣への興味や感想を述べるガーデナーもいれば、「ここ数年町内のあちこちでおとぎの国のような庭が目につき大変美しく、そして私自身大変刺激され、あんなふうに飾ってみたいと思い始めました。」(交流タイプ・33 歳・女性)など、近隣への関心が花づくりの手本やきっかけになっていることを述べる人もいた。

今後の庭づくりに望んでいることに関する記述

今後の庭づくりに望むこと、もしくは今後の課題についての記述を、ミクロ的な希望、マクロ的な希望の二つに分けて考察を行った。ミクロ的な希望とは、「自分の庭の広さ」や「自分のガーデニング知識の増加」など、ガーデナー自身が自分や自分の庭に対する希望である。最も多かったものは、来年度への土づくりや種取りなどの意気込みについての記述であった(表 4-16)。一方、マクロ的な希望とは、「道行く人を楽しませる」「近隣のお手伝いの輪を広げる」など、自分の庭づくりをとおしてコミュニティなどある程度広い対象に対して抱く希望である。マクロ的な希望で最も多かったものは、「花いっぱいのもちづくり」であった(表 4-17)。

表 4-16 ミクロな記述の例

	来年への豊 富・モノ(土 作り・種取	景観の向上 (飾り方)	庭の広さ	ガーデニン グ知識の増 加・勉強・挑	ずっと守り つづけてい くこと	その他	総計
サービスタイプ	1	1	1	0	0	0	3
交流タイプ	1	2	0	1	2	0	6
こだわりタイプ	4	4	1	4	1	0	14
マイペースタイプ	1	0	0	0	0	0	1
展示タイプ	1	1	0	0	0	0	2
創作タイプ	10	1	0	0	1	3	15
総計	18	9	2	5	4	3	41

表 4-17 マクロな記述の例

	花いっぱい のもちづくり	道行く人を 楽しませる	近隣の花か ざりのお手 伝い・花か ざりの輪を 広げる	仲間づくり	地域のモデ ルの存在	その他	総計
サービスタイプ	3	0	1	1	0	1	6
交流タイプ	2	0	2	1	0	1	6
こだわりタイプ	1	1	2	0	1	2	7
マイペースタイプ	0	0	0	0	0	0	0
展示タイプ	0	0	0	0	0	0	0
創作タイプ	0	2	0	1	1	0	4
総計	6	3	5	3	2	4	23

まず、ミクロな希望について考察する。一次審査通過者の全体で 25%の人が来年の抱負など記述しており、庭づくりに積極的な集団であることがうかがえる(図 4-24)。タイプ別にみると、²検定によるタイプとの関連性はみられなかった。創作タイプがミクロな記述が最も多く、作品を作り上げることに積極的な傾向をもつ集団であることがうかがえる。

マクロ的な希望とタイプとの関連性も認められなかった。サービスタイプ、交流タイプとともに20%を超えており(図4-25)、両タイプのガーデナーの意識は公へ開かれつつある傾向を示している。

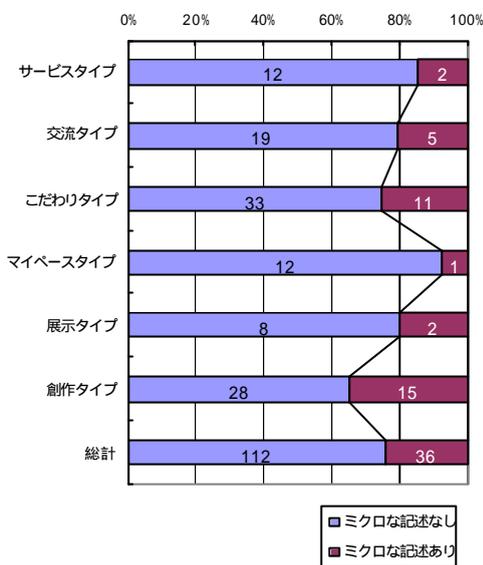


図 4-24 ミクロ的の希望の記述の有無

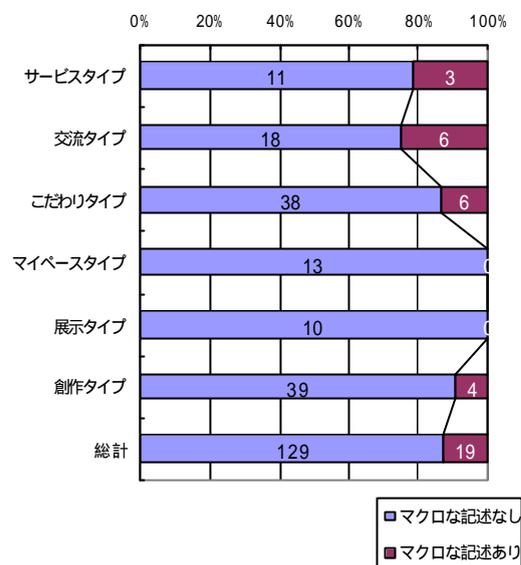


図 4-25 マクロ的の希望の記述の有無

自宅外での花づくり・花かざり活動に関する記述

自宅の庭以外で花づくりや花かざりへの取り組みについて、それに関する記述を抜き出した。全体的にみて、自宅の庭以外へと活動に関する記述者は少ないため、タイプ別考察は行わない。「主人もボランティアで町の花かざりに協力して花壇作りや通学路にプランターを並べて花かざりをしています。」(サービスタイプ・54歳・女性)、「今年は子供会の共同花作りにも協力させていただき、これも今年といわず来年も続けて行けたらなあと思っています。」(交流タイプ・年齢無記入・男性)など、自宅外での花づくり活動について記述している人は全部で6人であった。ガーデニングの活動範囲が自宅の庭以外にも及ぶということは、公に対する具体的な行動としてあらわれており、公への意識が非常に高いガーデナーであると思われる。具体的な活動内容をみると、地域の花づくり活動へ参加している人が3人と最も多く、ついで花壇の審査への参加、都市計画策定懇話会への参加が1人ずつとなっている(表4-18)。

表 4-18 自宅外での活動に関する記述

資格との関連性を見ると、サービスタイプの1名、創作タイプのうち1名はアドバイザーなどの資格を持っている。責任ある立場となることで、より自宅外での活動に関心を持ちやすいのではないかと考える。

タイプ	人数	該当者の自宅の敷地外での活動(人数)
サービスタイプ	1	町の花のアドバイザー
交流タイプ	1	・ガーデンコーディネーター(日本園芸協会)
こたわりタイプ	0	
マイベースタイプ	1	寄せ植え華道研究会
展示タイプ	0	
創作タイプ	2	可児市都市景観基本計画策定懇話会委員・美しいまちづくりモニター(1) 寄せ植え華道研究会(1)

(2) タイプ別考察(傾向)

続いて、タイプごとにみた公への意識について考察を行う。

サービスタイプ

サービスタイプは、街の景観向上や道行く人の癒しを動機としてガーデニングを行っている集団であったが(4-4-1 参照)、そのことは庭の形態にも強く関係していると思われる。不明な部分を除くと、オープンな庭が多い(図 4-22)。

庭づくりについて望んでいることで、マクロな視点のものは、交流タイプに続いて2番目に多い記述数となっている(図 4-25)。記述には、「岐阜県を全国一の花づくり県にしたいものです。」(年齢無記入・女性)や、「県民が花を愛し、優しい心が養われますように。」(54歳・女性)といった願望的なものと、「今後の課題は近隣の花かざりのお手伝いをして草花いっぱいの街、そしてオープンガーデンの仲間を作りたいと思っています。」(53歳・女性)「今後も町の人々が花と楽しみ、町が花いっぱいになるように努力していきたいと思えます。」(54歳・女性)といった現実的なものと2通りのパターンが見られる。

公に対して比較的高い意識を持っている集団であるといえる。

交流タイプ

サービスタイプ同様、庭についてはオープンな形態がほとんどである(図 4-22)。近隣の活動に対しても20%近くの人々が興味を示している(図 4-23)。

望んでいることでは、マクロ的記述が6タイプ中最も多い。サービスタイプと同様、「21世紀に向け親から子、子から孫に花や緑のよさを教えて一緒に育てて花と緑が町いっぱいになるようにがんばって行きたいと思えます。」(61歳・男性)など、まちを花いっぱいにしたいという願望を持つ人も含まれている。交流タイプには「今後も人と人との触れ合いを大切に、花かざりを続けていきたいです。」(年齢無記入・女性)や、「地域の人たちが楽しめる文化サロンを建てるのが今の自分の夢でもあります。」(年齢無記入・女性)など、コミュニケーションの場作りに代表されるような交流に関する希望が他タイプに比べて多くみられ、このタイプもサービスタイプと同様に、公に対して高い意識を持つ集団であるといえる。

また、交流タイプには、交流を望みながらも、人と交流していく中で、問題点や不満を持つ人も存在している。「通学路で子ども達がさいた花を『ぬいたり』『おったり』してしまうので花の大切さをおしえてやる事。」(年齢無記入・女性)に苦労したと述べるガーデナーもいれば、「3年程前からカサブランカを植えています。主人が飲んだらあちこちで家にカサブランカがたくさんあるので咲くようになったらあげると言っているらしく、つぼみの頃になるとあちこち持って行って咲く頃には半分になります。腹が立つけど花が好きな人ばかりなのであきらめています。」など、交流そのものは望んでいるものの、不特定多数との交流は望まないという指向性もみられる。

人と接しているガーデニング活動を行っているため、公に向けての意識は高くマクロ的

な視点での希望も多くあるが、一方で、交流をとおしての不満や問題点も持ち合わせやすい集団であるといえる。

こだわりタイプ

こだわりタイプの庭は、外に対して閉ざされている形態が他のタイプに比べ若干多い傾向にある（図 4-22）。また、近所の庭についても関心を示す人は 1 割にも満たない（図 4-23）。

今後の庭づくりへ望むことについても、「個人から集合体へそして町全体へと“花のまちづくり”が広がっていくならどんなにかうれしいことでしょう。」（年齢無記入・女性）といったように、マクロ的視点での希望が多くみられるものの、やはりどこか願望的な感じで、行動が伴っていないような印象を受ける。「今後地域とのバランスも考えていろいろな種類の山野草を育てたいと思います。」（年齢無記入・女性）といった記述からは、地域を意識しながらも、あくまで自分の庭づくりが主であるという印象を受ける。その他、変わったところでは「面積は少ないけど、高富 1 を目指してがんばってます。これからもみんなに双葉台の さんの家に見学に行こうというようにがんばります。」（年齢無記入・男性）など、強い目標設定を持つ記述もみられる。

また、交流タイプの傾向と同じような、「あつかましい人が『切ってください』と言われましたがいくらたくさんあっても切る気持ちにはなれなくて……。時々花どろぼうさんもいて少し悲しい思いをさせられる時もあります。」（50 歳・女性）といったように、交流や花いっぱいのもちづくりを望みながら、やはり自分の庭作りに追われ、公への意識を潜在的に持っている反面、それを積極的に行動に移すことのできない集団であるといえよう。

マイペースタイプ

開かれた形態の庭は多いが（図 4-22）、近隣やコミュニティへの関心を示す記述も全くなく（図 4-23）、マクロ的な視野での希望を記した記述は全くみられない（表 4-17）。公への意識がみられない集団である。

展示タイプ

開かれた形態の庭は多い（図 4-22）。近隣に関する関心は、6 タイプ中最も多い記述数となっているが、マイペースタイプ同様、マクロ的視野での希望に関する記述が見受けられない（図 4-25）。近所への関心も、興味で終わっており、明確な公への意識や公に対する行動がみられない集団である。

創作タイプ

庭の形態についてみると、開放している庭の割合が 6 タイプ中最も低くなっている（図 4-22）。近隣に関心を持っている人も低い（図 4-23）。

今後の庭づくりについての希望に関しては、ミクロ的な視点での記述が 6 タイプ中最も

高く、「旅行が大好きでオランダの家庭に大感激。あんなふうにオープンな庭が出来ればと思っています。」(57歳・女性)など、自分の庭に対しての入れ込みや積極性がうかがえる。その一方でマクロ的な視点での希望を記述したガーデナーはその3分の1にも満たない(図4-25)。

しかしながら、具体的な記述をみていくと、「今後は道路に面した土地にもバラなど色々植えて近所の人や道を通る方にも楽しんでもらえるような庭を作りたいと思います。」(年齢無記入・女性)といった道行く人を癒したいという希望がみられる。また、「まだまだ多い日本の家屋の花かざりの一つのモデルになるべく、苦勞しています。」(年齢無記入・女性)や、「これからはインターネットを通して全国の花愛好者たちと情報交換が出来たらと考えています。」(年齢無記入・女性)といった近隣よりさらに大きな公への広がりを目指しているガーデナーもみられる。ただ、集団の中ではそれらのガーデナーは小数事例であり、創作タイプ全体としては公への意識はそれほど高くない集団であるといえる。

(3)まとめ

一次審査通過者の庭の形態は全体的に開かれている庭が多いことがわかった。公への意識の段階と、ガーデナーが認識している公の範囲とをタイプ別にまとめた(図4-26)。公への意識が高いのは、「サービスタイプ」と「交流タイプ」であり、公への意識が一歩行動へと踏み出しつつある段階にある。「サービスタイプ」は花いっぱいのみちづくりなど、やや限られた範囲を意識して行動しているのに対し、「交流タイプ」は不特定の人との交流を望むなど、サービスタイプよりも広い範囲を公として認識していることが推測できた。

また、「こだわりタイプ」と「創作タイプ」の中にも、行動には出ていないものの、公を意識しているガーデナーが存在していた。「創作タイプ」の中には近隣(local)よりもさらに大きな公(global)への広がりを望んでいるガーデナーが含まれていた。

「展示タイプ」は近隣などへの関心はあるが、明確な意識としてはあらわれておらず、「マイペースタイプ」は公への関心に関する記述は全くみられなかった。

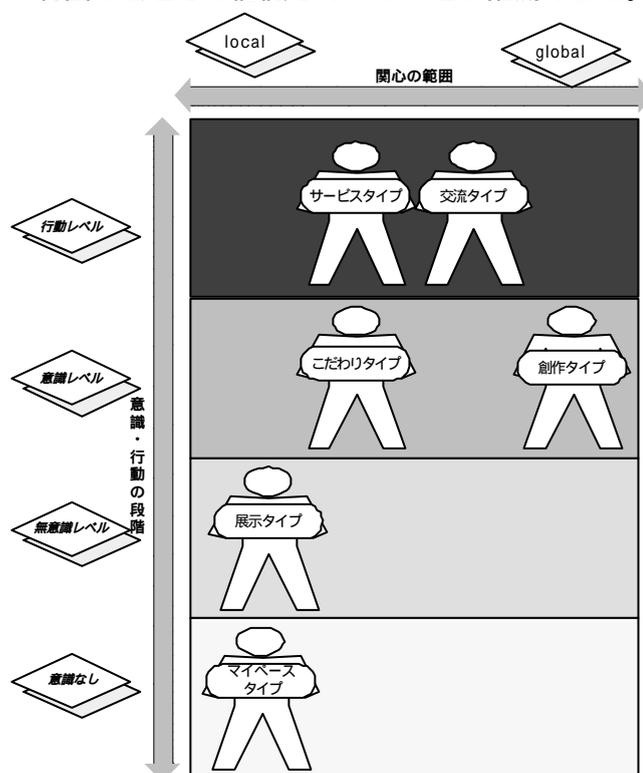


図4-26 タイプ別にみた公への意識

4 - 4 連続一次審査通過者について

4 - 4 - 1 連続一次審査通過者について

第8回・9回のコンクール一次審査通過者154名のうち、2年連続して一次審査を通過した人は16人であった。本研究では、延べ人数として、記述不備などで分析対象外とした6名を除いた148名分の応募用紙の分析について考察を行ってきた。連続応募者についても年度別の個々の応募用紙を対象として、分析上は別人として扱ってきた。

本項では、16名のうち、応募用紙記述不備の2名を除く14名の連続一次審査通過者について、そのタイプの変化について考察する。これは、一年を経てガーデナーの年度別のタイプがどう変わったかに関する考察であるが、14名という標本数は絶対的な傾向をみる数としては説得力に欠けるため、あくまで大まかな傾向をみるものでしかない。

4 - 4 - 2 連続一次審査通過者のタイプの変更にみるガーデナー意識の考察

分析の対象とした14名のうち、2年連続で同じタイプであったのは3名で、11名については何らかのタイプ変化が起こっていた(表4-19)。これらの変化について変化のパターンを5つ読み取った。

表4-19 年度別にみるタイプの変化

		第9回						
		サービス	交流	こだわり	マイペース	展示	創作	総計
第8回	サービス	0	0	0	0	0	0	0
	交流	0	0	1	0	0	0	1
	こだわり	0	1	1	1	1	0	4
	マイペース	1	1	1	0	0	0	3
	展示	0	0	0	1	0	0	1
	創作	0	2	1	0	0	2	5
	総計	1	4	4	2	1	2	14

ミクロ的視点タイプ マクロ的視点タイプへの変化(5人)

これまで、サービスタイプ、交流タイプはマクロ的視野を持つガーデナーの集団であり、一方こだわりタイプ、マイペースタイプ、展示タイプ、創作タイプはミクロ的視野を持つガーデナーの低い集団であることがわかっている(4-3-1)。

ミクロ的視点を持つタイプからマクロ的視点を持つタイプへの変化は全部で5人であった。

いずれの人も、タイプ分けの際注目した庭づくりの動機に関しては、記述の仕方はほとんど変化していない。具体例では、夫婦で取り組んでおり両年で書き手が変わっているため、個人の意識の差によりタイプが異なると考えられるガーデナー(マイペース サービス)が1名みられた。また、もともとマクロ的視点の記述はみられたが、交流や周囲の声などを通し、次年度にはそれらのマクロ的な視点の記述が増加したガーデナー(こだわ

り 交流、創作 交流、マイペース 交流、創作 交流)が4名みられた。長くガーデニングを続けていく過程で、人との交流や対話などが生じ、それらがガーデナー自身の公への意識を強めさせることがあるとわかった。

マクロ的視点タイプ ミクロ的視点タイプへの変化(1人)

でみられた変化とは逆に、マクロ的視点を持つタイプが、ミクロ的視点を持つタイプに変化したパターンも1名みられた(図4-27)。一度開かれた意識が閉ざされるという変化はやや不自然な流れではある。応募用紙の記述を元に考察すると、もともと公への意識が高く、交流タイプであったが、コンクール入賞を経て、交流(サービス) こだわり(人を楽しませるためのモノづくりになった)と考えられる。「環境、経済的な制約があっても見る人がこれなら私にも出来ると意欲が湧くような花かざりをめざしました。」「花はチューリップやパンジーなど誰もが良く知っているものを多く植え、親近感が持てるようにしました。」(第9回)など、庭を見る人を前提にした「見せ方」や「感じさせ方」へのこだわりを徹底したためと思われる。

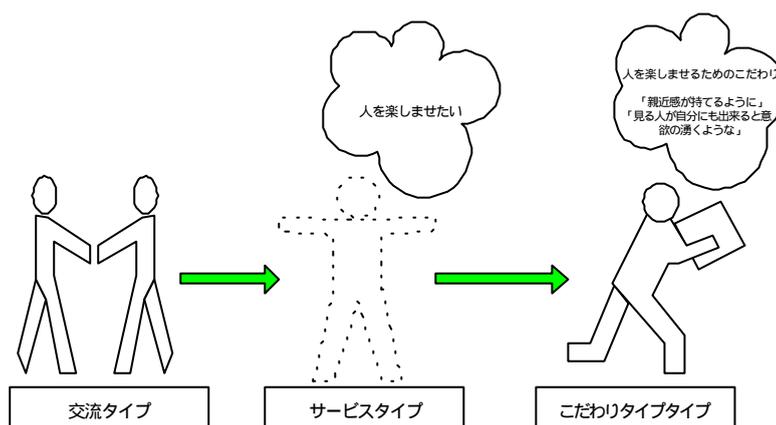


図4-27 マクロタイプからミクロタイプへの変化

モノづくりタイプ 作品づくりタイプへの変化(1人)

庭づくりの動機に関してはほとんど変化していない。極端に景観に関する記述が増加したため、タイプが変化している。より景観に対する興味が深まり、テーマ設定などに意欲的になったと考えられる。

作品づくりタイプ モノづくりタイプへの変化(2人)

動機などはほとんど変化していない。第8回時は飾り方など景観に関する記述が圧倒的に多かったのに対し、次年度には庭づくりの動機といった景観以外の記述が加わっていた。

同系統のタイプ同士での変化

(<モノづくりタイプ>こだわりタイプ - マイペースタイプ、 <作品づくりタイプ> 展示

タイプ - 創作タイプ>)(2人)

動機などはほとんど変化していないため、留意点など単なる記述の差によるものと考えられる。第8回時はガーデニング歴一年目で、次年度にますます熱中し、記述にも自信や余裕がでてきた例もみられる。例えば、「**ガーデニングブームにちょっぴり乗っかってみたものの大変でした。・・・(中略)家の前を歩いていかれる人が笑っていかれるのではと思うこともしばしば**」(第8回・マイペース)であったが、第9回では、「**最近、近所の方々も花かざりをする人が増えてお互いに花を見せあったり、苗の交換をしたり、話に花を咲かせることもあります。**」(第9回・こだわり)と述べるなど、1年間という短い間にもガーデナーの意識は大きく変わることがあるとわかった。

連続一次審査通過者について、タイプの変更がみられるものがあったが、多くの場合動機は大きく変わっておらず、意識レベルでの変化はみられなかった。しかし、一年の間にガーデニングを通じた交流によりミクロ的視点がマクロ的視点に変化するといったガーデナーもみられた。

4 - 5 一次審査通過者の意識特性とコンクールとの関連性に関する考察

4 - 5 - 1 コンクール過去受賞者について

(1) コンクール過去受賞者とガーデナータイプとの関連性についての考察

本節では、過去のデータによる花かざりコンクール過去受賞者、本人記述による地元市町村などのコンクール受賞歴に基づき、コンクール受賞の有無と一次審査通過者それぞれのタイプとの関連性を考察した。

分析の対象とした148名のうち、なんらかのコンクール受賞経験があるのは21名であった(図4-28)。また、そのうちコンクール入賞についての記述があったのは10名であった。記述がなかったガーデナーはいずれも花かざりコンクールの過去受賞者である。コンクール受賞に関する記述をみると、過去2、3年までのコンクール受賞歴を記述するガーデナーが多くみられ、近年のコンクール受賞がガーデニングにとってアピール材料になっていることがわかった。

²検定により、コンクール受賞歴とガーデナータイプには関係性がみられなかった。図4-29はサービスタイプ、交流タイプをマクロ的視点が強い「マクロタイプ」、こだわりタイプ、マイペースタイプ、展示タイプ、創作タイプをミクロ的視野が強い「ミクロタイプ」とし、コンクール受賞内容の内訳をみたものである。

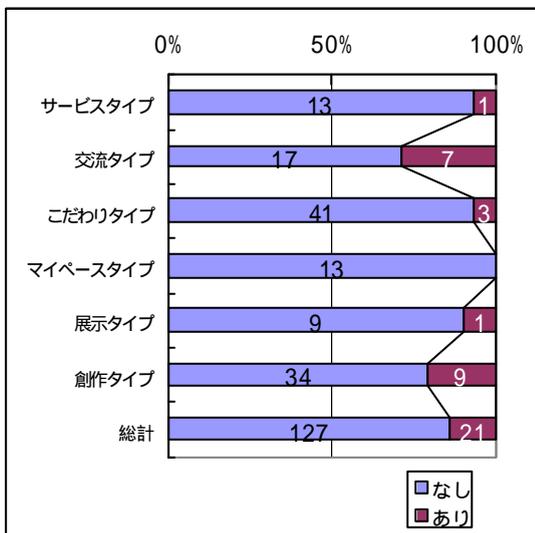


図4-28 タイプ別にみたコンクール受賞歴の有無

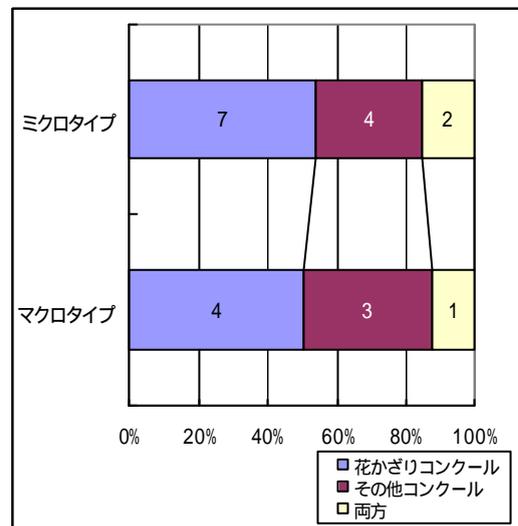


図4-29 タイプ別にみたコンクール受賞の内容

(2) コンクール受賞が意識およびガーデナータイプに与える影響

次に、コンクール受賞に関する記述(10名)から、一次審査通過者がコンクール受賞をどのように受け止めているかを考察した。

コンクール受賞がガーデナーに与える影響は、大きく次の二つに分けることができると

考えた。まず、コンクール入賞により見学者が増加し、それらの人々との交流などをきっかけにしてサービスタイプや交流タイプとなる「マクロ化」である。第二に、コンクール受賞が個人の庭づくりの目標となり、それを励みにますますコンクール入賞という目標へ意識が高まったり、自分の庭に対する取り組みがより熱心になる「ミクロ化」である。以下に具体的な記述を例にあげる。

マクロ化

まず、マクロ化の例である。「可児市花フェスタ記念公園の寄せ植えやハンギングコンテストに出品して優良賞、アイデア賞をいただき、町の花のアドバイザーとして活動しています。」(サービスタイプ・54歳・女性)とは、コンクール受賞をきっかけにアドバイザーとなり、広く地域で活動を展開することとなったガーデナーの記述である。また、コンクールをきっかけに、見学者との交流が始まったガーデナーは、「**昨年のコンクールで奨励賞をいただき、広報誌にのせていただいたことがきっかけで通りすがりの人だけでなく、市内はもとより近隣の笠原町や土岐市などからも花好きの方が訪れてくださって、うれしさと、忙しさにあわてております。**」(交流タイプ・54歳・女性)と記述している。コンクール受賞をきっかけに地域のキーパーソンの存在となり、自身もそれを楽しんでいる姿をうかがうことができる。

ガーデナー数人へのヒアリングなどからは、もともとコミュニティに対する意識が高い人は、ガーデニングについてもマクロ的視野を持ち、周りを意識したガーデニングをおこなっていることが多いという印象を受けた。それらのガーデナーにとっては、コンクール受賞とはマクロ化へ引き金となるものと考えられる。また、本来ミクロ的視野であった人がコンクール受賞により、周囲との交流が始まり、地域に対し貢献的な花かざりを始めたり、地域の花づくり活動へ参加したりとマクロ的な視野へ展開していくプロセスも推測することができる。

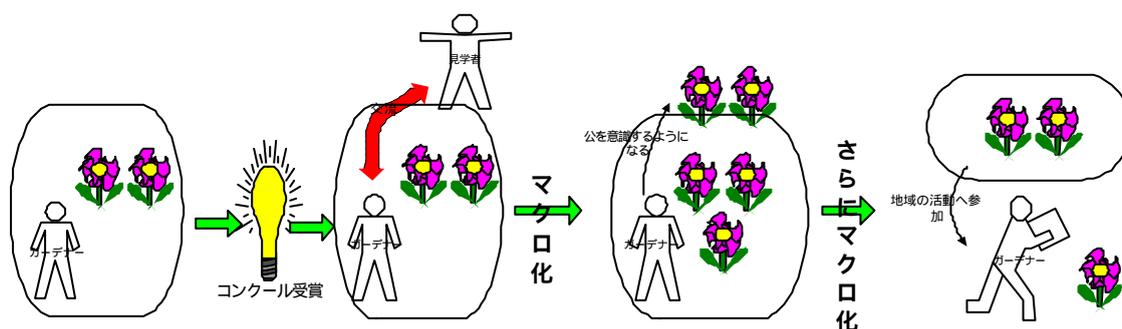


図 4-30 マクロ化の例

ミクロ化

一方、ミクロ化の例であるが、「**昨年は初めて応募して奨励賞をいただきましたので、今年は何を花に変えて広い場所で挑戦してみました。**」(交流タイプ 54歳・女性)や、「**昨年は花かざりコンクールにおいて奨励賞をいただき有難うございました。この賞を励みに今**

年も真心を込めて花づくりに再度挑戦してみました。」(創作タイプ・年齢無記入・女性) といったように、これらのガーデナーにとっては花かざりコンクールへの応募や、受賞が達成目標となっていることがわかる。また、「昨年多治見市の花づくりコンクールでステキな賞を、今年の春に花フェスタで寄せ植で優秀賞をいただき、とても幸福に思っています。」(交流タイプ・52歳・女性)と、花かざりコンクール以外の様々なコンクールに応募している人もいる。「久々野花のまちづくりコンクール9年度銅賞、10年度金賞、11年度、銀賞」(創作タイプ・年齢無記入・女性)と、市町村コンクールで3回入賞歴を誇っている記述も見られる。

これらから、自分の庭に対する評価を望み、「コンクール」に出品することが一つのステータスや趣味になっている応募者の存在も指摘できる。あるガーデナーへのヒアリングからは、ほんの些細なきっかけで応募したが、予想外に奨励賞を受賞したことでガーデニングへの興味がますます増したという話も聞かれた。コンクール入賞は、ガーデナーがガーデニングの魅力を再発見することにもつながる。しかし、自分の庭にしか興味のないミクロ的視野の人が受賞すると、「次年度はより上の賞を」とますます賞をとることへの執着が強まり、コンクールがガーデニング技術優先の場へと変化を遂げつつあることもこのことが原因の一つであるともいえよう。

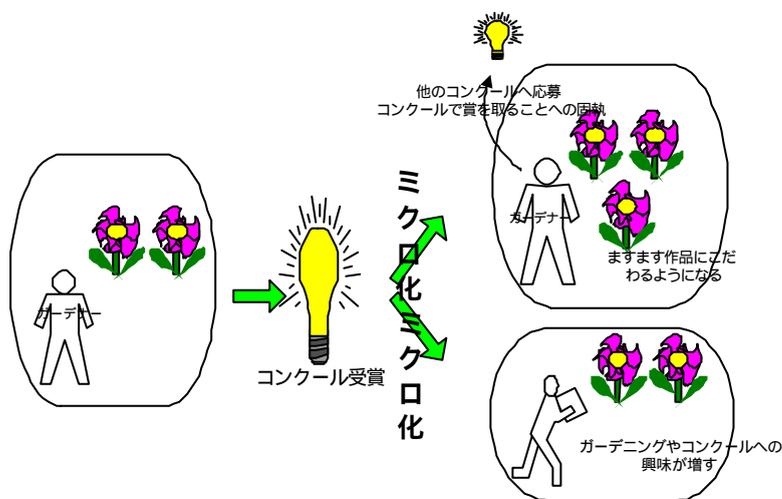


図 4-31 ミクロ化の例

4 - 5 - 2 年度別にみたコンクール一次審査通過者について

(1) 年度別にみた一次審査通過者のタイプについて

これまで2年分、計148名分の応募用紙を統合した上でタイプ分け等を行ってきたが、本節では、年度別のタイプの比較を試みた。両年度では一次審査の審査基準がそれぞれ異なるため、それによって一次審査通過者集団としての傾向に何らかの影響を与えたのか、与えていればそれはどのような理由からか、その関連性を探ることを目的としている。

148名の内訳であるが、第8回が58名、第9回が90名となっており、タイプ別にみてもいずれのタイプにおいても第9回が上回っている(図4-32)。

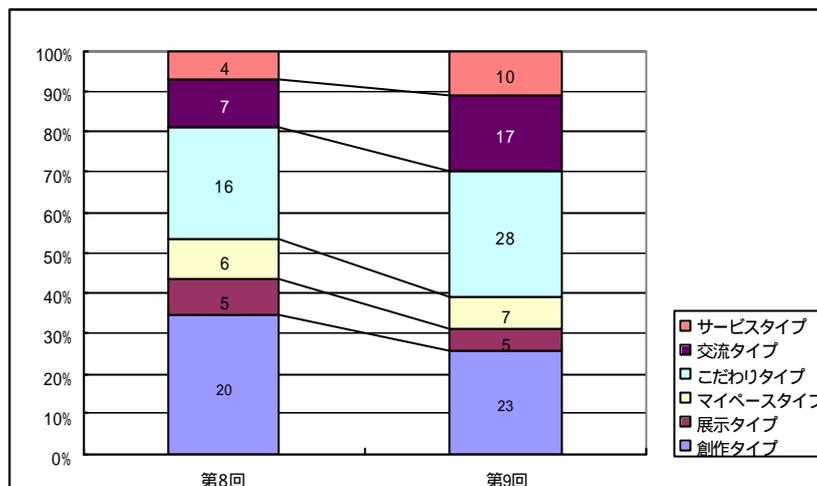


図 4-32 年度別にみた一次審査通過者のタイプ別内訳

第 8 回コンクール一次審査通過者（58 人）にみるタイプの分布

最も多いのは「創作タイプ」であり、「展示タイプ」とあわせ「作品づくりタイプ」としてみると、46%と実に半数近くにも上る。逆に最も少ないのは「サービスタイプ」で、7%であった（図 4-32）。

第 9 回コンクール一次審査通過者にみるタイプの分布

第 9 回は、第 8 回と比べ大幅な変動を見せた。最も多いのは「こだわりタイプ」で、逆に最も少ないのは「展示タイプ」であった（図 4-32）。加えて、「展示タイプ」と「創作タイプ」をあわせた「作品づくりタイプ」の大幅な減少が見え、それに代わって「サービスタイプ」と「交流タイプ」が、合わせて第 8 回 30%から 40%へと増加している。

（ 2 ）年度と一次審査通過者タイプとの関連性についての考察

第 3 章にも述べたとおり、一次審査の通過基準は、両年で異なっている。第 8 回では作品としての庭への評価により重点が置かれ、景観面が特に注目されてきたため、景観のレベルもおのずから高くなり、作品づくりタイプのガーデナーが多かったと考えられる。第 9 回には、割合で一次審査通過者を決めるということで、比較的一次審査の通過の門が広くなった。このことで景観に対する審査員の注目が弱まり、多様なタイプのガーデナーが通過しやすい状況ができたのではないかと考えられる。技術ばかりが目目され、技術のオンステージとなりつつある現在のコンクールの問題点を見直す上で、第 9 回での審査基準の改定は望ましい傾向を示す結果を生んだといえるのではないだろうか。

4 - 5 - 3 まとめ

コンクール受賞によって交流が生まれたり、ガーデナー自身の公への意識やガーデニングへの関心が強まったりするなどの効果を生む反面、ガーデナーによっては賞をとることへの執着を強めることにもなる。いずれにせよ、コンクールがなんらかの刺激を与えることが明らかとなった。

また、第9回では審査基準の幅を広げたことにより、「展示タイプ」や「創作タイプ」などの「作品づくりタイプ」が減り、代わって「サービスタイプ」や「交流タイプ」などのマクロ的視点を持ったタイプが増えたことにより、景観ばかりが注目されつつあった傾向を弱めることができたといえる。

4 - 6 まとめ

4章では、一次審査通過者の意識特性を把握することを目的として応募用紙の分析から考察をおこなった。4 - 1では一次審査通過者の属性を把握し、4 - 2では庭づくりの動機と庭づくりの留意点に基づきガーデナーのタイプ分けを行った。また4 - 3では、花かざりコンクール一次審査通過者の意識特性を、庭づくりの動機(4 - 3 - 1)や庭づくりの留意点(4 - 3 - 2)、ガーデナーの公への意識(4 - 3 - 3)について考察し、4 - 4では連続一次審査通過者にみるガーデナー意識の変化に注目して考察をおこなった。また4 - 5ではガーデナー意識の中でのコンクールの位置付けについて考察を加えた。本節ではそのまとめをおこなう。

4 - 6 - 1 「花の都ぎふ」花かざりコンクール一次審査通過者の意識特性に関する考察

(1) 一次審査通過者全体での傾向

写真による一次審査を通過した集団であり、ガーデニング技術や「作品」としての庭の美しさが優れている集団であると予測される。全体のガーデナーのうち女性が80%であり、比較的庭づくりに取り組める時間がある主婦層が多いと判断できる。またガーデニング歴は10~20年のガーデナーが3割を占め、ガーデニングブーム以前からガーデニングを楽しんでおり、その「集大成」として、コンクールに応募していることが予測される。過去に何らかのガーデニングコンクールの受賞経験があるガーデナーはおよそ15%であった。

全体的には外に開かれた形態の庭が多く、飾り方や素材などの何らかのこだわりをもつガーデナーが多く存在していた。

(2) タイプ別考察

次に、タイプ別の特徴をまとめる。表4-20は、庭づくりの動機、庭づくりの留意点、公への意識についてタイプごとにまとめたものである。また、連続して一次審査を通過したガーデナーの中には、一年の間に、交流やコンクール受賞をきっかけに花かざりの興味が深まるなどタイプの変更がみられるガーデナーが存在した。

サービスタイプ

サービスタイプは、庭づくりにおいて「道行く人の癒し」や「街の景観の向上」に大きく動機を持っており、自分のためだけでなく、他人のことも考慮しながら花づくりを行っているタイプである。

環境を意識して徹底的に活動しているというよりは、お金をかけないためという節約的な意味合いが強いが、環境に配慮したガーデニングをおこなっているガーデナーが多い。

また、不明な部分を除き、オープンな庭が多く、(図4-22)庭づくりについても、花いっぱいのみちづくりや近隣の花かざりの手伝いを望んでいるなど、公に対して比較的高い意識を持ち行動している集団である。

交流タイプ

サービスタイプが人のために意識して「景観」を作ることで地域に奉仕しているのに対して、交流タイプは、「日常的に行われる近所の人たちとの対話」や「周囲の反応が励み」を意識しており、それが自己の花づくりに還元されるタイプである。また、「株分け・苗分け」など、サービスタイプよりも「モノ」を通じた奉仕をより重視しているのも特徴である。

環境に関しては特に強く環境問題を意識して行動しているわけではないが、土づくりなど何らかのこだわりをもちガーデニングを行っている

庭についてはオープンな形態がほとんどである（図 4-22）。近隣の活動に対しても 20% 近くの人が興味を示している（図 4-23）。

まちを花いっぱいになりたいという願望や、コミュニケーションの場作りに代表されるような交流に関する希望が他タイプに比べて多く、公に対して高い意識を持っており、望みと同時に交流をとおしての不満や問題点も合わせて持ち合わせやすい集団である。

こだわりタイプ

こだわりタイプはミクロ的視野を持ちモノを作る過程を楽しみながら庭づくりをおこなっている集団である。庭づくりでは景観面よりも、土や肥料作り、種作りなどにこだわっており、特に「リサイクル」や「節約」という点を重視している人が多い。

環境に配慮したコメントの記述も 6 タイプ中最も高く（図 4-18）、はっきりと環境を意識した「エコ・ガーデナー」が存在していることがうかがえる。

こだわりタイプの庭は、外に対して閉ざされている形態が他のタイプに比べ若干多い傾向にあり（図 4-22）近所の庭についても関心を示す人は 1 割にも満たない（図 4-23）が、交流や花いっぱいのまちづくりを望む人は存在している。公への意識を潜在的に持っているが、自分の庭づくりに追われ、それを積極的に行動に移すことのできない集団である。

マイペースタイプ

マイペースタイプは、動機に関する記述が最も多く（表 4-7）ミクロ的視野でできあがった景観よりも、それを育てる過程により強い関心を持ってマイペースで庭づくりを行っているタイプである。

環境に配慮したコメントに関しても全く記述がなく、環境問題に関してあまり興味や関心がないことがうかがえる。

また、開かれた形態の庭は多いが（図 4-22）、近隣やコミュニティへの関心を示す記述も全くない（図 4-23）。公への意識という強いものではなく、単なる興味で終わっているタイプであると推測できる。

展示タイプ

展示タイプは、きれいなものへの関心が高く、それらから満足度を得ている集団である。

留意点についてはデザイン、色、飾り方の工夫など、景観に関する記述が極端に多く、記述の表現についてもコンクールを意識し、アピールしているような印象を受ける。環境に配慮したコメントについては全く見られず（図 4-18）環境に関してはあまり関心がない集団である。

開かれた形態の庭は多く（図 4-22）。近隣に対する関心も比較的高いが（図 4-23）、興味を示すだけにとどまっており、明確な公への意識や公に対する行動がみられない。

創作タイプ

展示タイプが「きれいなもの」に満足するタイプであるのに対し、創作タイプは「きれいなものを作ること」に意義を見出しているタイプである。

展示タイプと同様に、色やデザイン、飾り方に関する記述が多く、展示タイプ同様、コンクールへの指向も強いと思われる。来年度に向けて自分の庭に対する願望や目標を持つガーデナーが多く、自分の庭に対しての強い入れ込みや積極性がうかがえる。

環境に配慮したコメントについては、自然志向的な記述のほか、リサイクルに関する記述がおおよそ 20%弱の人にみられた。

庭の形態についてみると、開放している庭の割合が 6 タイプ中最も低い（図 4-22）。近隣よりさらに大きな公への広がりを望んでいるガーデナーがみられるが。それらは集団の中では小数事例である。近隣の花づくりに興味を持っている人も少なく（図 4-23）創作タイプ全体としては公への意識はそれほど高くないといえる。

表 4-20 ガーデナータイプと特徴

		庭づくりの動機	庭づくりの留意点	公への意識
サービスタイプ		道行く人の癒し	飾り方など景観に若干強いこだわり	意識としてだけでなく、地域の活動への参加など行動でも貢献している人がいる
		街の景観の向上	30%近い人が環境を意識している(自然を意識、リサイクル用品の利用)	花のまちづくりを望んでいる人が多い
交流タイプ		見学者やそれまで知らなかった人との交流	色、飾り方など景観に若干強いこだわり	意識としてだけでなく、地域の活動への参加など行動でも貢献している人がいる
		近所の人との対話 周辺住民など話し相手の影響・反応が楽しみ・喜ばれるのが嬉しい 株分けや苗分けなどモノのやり取り	20%の人が環境を意識している(リサイクルして自分で作る土にこだわり)	交流や交流の場を望んでいる人が多い
モノづくりタイプ	こだわりタイプ	植物を育てる喜び ゆとりのある生活を送りたい	お金をかけないことへのこだわり 土作り、肥料作りなどへのこだわり 30%以上の方が環境を意識している(リサイクル、堆肥作り)がお金をかけないためという理由が大きい	公への意識や花づくりを広めたいという気持ちはあるが願望で終わっており行動には表れていない
	マイペースタイプ	生活の一部(ライフスタイル) 計画する楽しみ 心の安らぎ 植物を育てる喜び	特になし・マイペースで花づくり	公への意識という強いものはなく、単なる興味で終わっている
作品づくりタイプ	展示タイプ	植物の庭の美しさから得る喜び	飾り方など景観に関するこだわり	近所の花づくりへの関心はやや高く、刺激を受けていることがあるが明確な意識や行動はみられない。
	創作タイプ	植物を育てる喜び 計画する楽しみ 自分の庭をきれいに保つ・きれいなものを作る楽しみ	飾り方など景観に関する記述が多い 20%の人が環境を意識している(自然志向)	閉ざされた形態が他タイプに比べやや多い 個人的に公を意識している人が存在するが、集団としてはそれほど意識は高くない

4 - 6 - 2 花かざりコンクールの有効性と限界

4 - 5 では、コンクールとガーデナー意識の関連性について考察をおこなった。それらの内容を下記にまとめ、花かざりコンクールの有効性について考察を加えた。

(1) コンクール受賞がガーデナー意識に与える影響

4 - 5 - 1 では、コンクールにおいて賞を受賞することによりガーデナーの意識には二通りの変化がみられることがわかった。まず、受賞後に見学が発生し、それらから交流が生まれることによりガーデナーが公を意識するようになる「マクロ化」、またガーデナー自身のガーデニングへの関心が強まったり、入賞することに対しての執着が強まったりする「ミクロ化」がみられた。

(2) 審査枠の拡大がコンクールに与える影響

また、4-5-2では、第8回から第9回にかけて、審査枠が拡大したことで、コンクール一次審査通過者の意識特性にも違いがあらわれたことがわかった。第8回に比べ、第9回では「展示タイプ」や「創作タイプ」などのミクロ的視点を持つ「作品づくりタイプ」が減り、代わって「サービスタイプ」や「交流タイプ」などのマクロ的視点を持ったタイプが増加していた。この傾向は、花いっぱいまちづくりのキーパーソンを発掘するという花かざりコンクール主催者の意図とも合致している。

これらから、花かざりコンクールの有効性について、以下のようにまとめる。ガーデナーの意識特性においてコンクールに入賞することはガーデナーの意識に何らかの刺激を与えていた。また、コンクール開催により技術の向上などがみられており、以上から花かざりコンクールはガーデナーの意識や取り組みに影響を及ぼしうるものであるといえる。

また、書類により写真(景観)で評価される一次審査では、優秀な作品を作ったガーデナーが審査を通過することになる。第9回では審査通過の枠を広げたことにより、作品づくりへ特にこだわりをもつ作品づくりタイプが減少し、マクロ的な視点を持つガーデナーが増加する傾向をみせた。しかし、枠を変えたことによるこれらの現象が今後も継続するとは限らない。一次審査の通過枠の見直しに伴い、今後はマクロ的な視点をもち、地域の花づくりに積極的に関与しているガーデナーを評価するための審査基準の見直しや応募用紙の形式についての検討も必要性がでてくるであろう。

4-6-3 一般ガーデナーと一次審査通過者との関係性

(1) 一般ガーデナーのタイプ分け軸における一次審査通過者の位置付け

次に、4章のまとめとして、一般ガーデナーのタイプ分けに関する軸を用いて、その中でコンクール一次審査通過者の位置付けをおこなった。これらにより一次審査通過者の意識特性をより明確に示すことができると考えた。

一般ガーデナーのタイプ分け軸(図2-1)にコンクール一次審査通過者を当てはめてみたものが図4-33である。円の大きさは人数を表している。一次審査通過者のうち、マクロ的視野を持ち、道行く人を景観で癒そうとしているサービスタイプは〔A:地域展開タイプ〕の中に位置する。また、花を眺めることを通じた対話や花苗のやりとりなどの交流を発生させている交流タイプはBに位置する。総称して〔D:モノづくりタイプ〕である「こだわりタイプ」と「マイペースタイプ」はともに第4象限に位置しているが、「こだわりタイプ」に比べ「マイペースタイプ」のほうが、より内面的な満足感を追求する傾向があると判断し、図4-33のように位置付けた。「展示タイプ」と「創作タイプ」はともに景観に関する興味が強く、またミクロ的視野をもつ集団であることから〔C:作品づくりタイプ〕に位置付けた。展示タイプが庭の美しさに喜びを感じているのに対し、創作タイプは美しいものを「作ること」にも喜びを感じていたため、図4-33のような位置付けとした。

(2) 一次審査通過者の意識特性に関する考察

図 4-33 から、花飾りコンクール一次審査通過者の集団としての特性をみると、マクロ的な視野を持つガーデナーよりもミクロ的な視野を持つガーデナーが多いことがわかる。しかし、軸によって一般ガーデナーの中のそれぞれのタイプに分布しており、さまざまなガーデナータイプが存在するガーデナーの集まりであるといえる。

また、一次審査通過者の交流タイプが一般ガーデナータイプ分け軸における〔B：交流タイプ〕の枠から「景観」はみ出して位置付けたのは、交流の媒介が花苗や果実などの「モノ」だけでなく、一次審査通過者の持つ、優れた景観を通じての「眺めることを通じた交流」が多く発生していたためである。

軸全体をみるとやや景観よりに位置しているように見えるが、本研究では意識分析の対象としなかった一般ガーデナーの意識特性と比較考察をおこなっていないため、明確な位置付けとはいききれない。ただ、コンクールの一次審査通過者という「優れた作品」を「所有」するガーデナー集団であり、景観を重視する傾向は全体的にみて強いのではないかと推測できる。

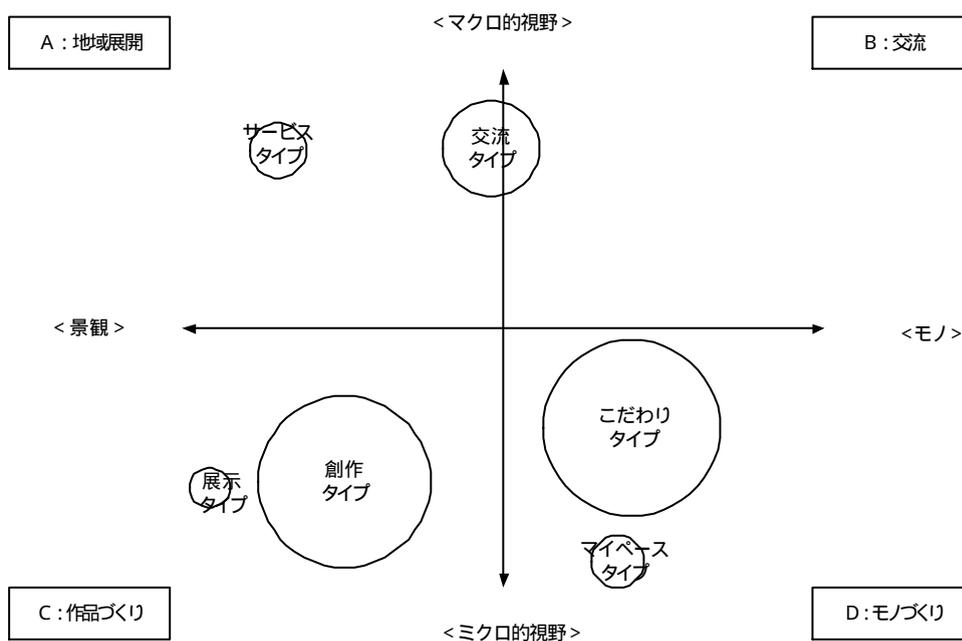


図 4-33 一般ガーデナータイプ分け軸における一次審査通過者の位置付け